JAPANESE RALLY CHAMPIONSHIP GUIDE 2026

# 全日本ラリー選手権 観戦ガイド 2026

CONTENTS

## 全日本ラリー選手権 基礎解説

2026年 開催全9戦の見どころをご紹介

## 全日本ラリーイベントインフォメーション

注目選手名鑑／2025年ポイントランキング

JRCA活動報告・入会のご案内／特別寄稿　衆議院議員 あかま二郎

JAF加盟団体
JRCA
制作・発行：ジェイアールシーエー
2026年2月発行

衆議院議員
あかま 二郎 あかま じろう
国家公安委員会委員長／内閣府特命担当大臣(防災、海洋政策)／領土問題担当大臣

# 全国のラリーファンの皆様へ

歴史ある全日本ラリー選手権が本年も開催されますことを、心よりお祝い申し上げます。主催者をはじめ、選手ならびに関係者、ラリーファンの皆様には、日頃より交通ルールの遵守、交通事故防止、道路交通秩序の維持、安全・安心な交通社会実現へ、多大なるご協力をいただいておりますことを厚く御礼申し上げます。

ラリーは、一般公道を舞台とした唯一無二のモータースポーツであり、日本全国から選手、関係者が集まり、開催地域の自治体や行政、地元の企業、警察、消防、病院、住民の方々が一体となって作り上げている、地域振興と地域経済性の高いイベントであると承知しております。

また、愛知県と岐阜県を舞台に開催される世界最高峰の大会、世界ラリー選手権（WRC）ラリージャパンも今年で第５回を迎え、国内のみならず世界各国から注目を集めるイベントとなっており、警察といたしましても、交通規制の実施や競技の円滑な進行、緊急時の対応など、安全の根幹を支える役割を担っております。

自動車産業やテクノロジーの進歩、行政による道路交通環境の整備、道路交通秩序の維持、交通安全啓発の取組み等により、国内の交通事故発生件数および交通事故負傷者数は、近年、減少傾向にありますが、65歳以上の高齢者および若年層ドライバーによる事故発生件数は依然として高い水準を示しております。この他、運転中のスマートフォンやカーナビゲーション装置等の注視といった「ながら運転」による事故や「飲酒運転」による事故も依然として後を絶たない状況にあります。

ラリー競技に携わる皆様におかれましては、日頃より高い交通安全意識を持ち、多くの方々の模範となっておられることと拝察いたします。卓越した運転技術を披露されるとともに、交通ルール遵守と交通安全マナーの普及・啓発を牽引し続けてくださることを切に願っております。また、ファンの皆様には、この素晴らしい競技を支えるかけがえのないパートナーとして、選手とともに交通ルールやマナーに則った安全運転を心がけていただき、ラリー文化を次世代へと繋いでくださることと期待しております。

最後になりますが、2026年度の全日本ラリー選手権が事故なく安全に運営されるとともに、モータースポーツがもたらす心豊かな社会づくり、地域の活性化および発展に寄与することを心より祈念いたします。

JRCA

ジェイアールシーエー(JRCA)会長
福永 修 ふくなが おさむ

# JRCAから皆様へ

日頃より全日本ラリー選手権の振興と発展にご尽力いただくとともに、ジェイアールシーエー（JRCA）の活動に対し、格別のご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。JRCAは今シーズンも、日本のラリーをより多くの方に知っていただき、より多くのファンの皆さまに実際の会場へ足を運んでいただくことを目標に、全力で活動してまいります。

ラリーは、山や森、街といった日本各地のフィールドを舞台に、人とクルマ、そして地域が一体となって作り上げるほかに類を見ないモータースポーツです。JRCAが今日まで活動を続けてこられたのも、主催者の皆さま、開催地の自治体・地域の方々、協賛企業各社、チームや選手、そして何よりもラリーを愛してくださるファンの皆さまの支えがあってこそであり、心より感謝申し上げます。

JRCAでは、全日本ラリー選手権の魅力をよりダイレクトに伝えるため、動画配信、速報映像、SNSによるリアルタイム発信をこれまで以上に強化し、「観れば行きたくなる」「行けばまた観たくなる」ラリーの発信を目指します。画面越しだけでなく、実際にスペシャルステージの迫力、エンジン音、森に響くタイヤの音、そして選手たちの真剣な表情を体感していただけるよう、情報発信と現地観戦の導線づくりを一体で進めてまいります。

また、これまでラリーに触れたことのない方々にも、このスポーツの面白さを知っていただくため、体験イベントや分かりやすい解説、観戦環境の整備にも力を注ぎ、誰もが気軽に全日本ラリーを楽しめる環境づくりに取り組んでまいります。

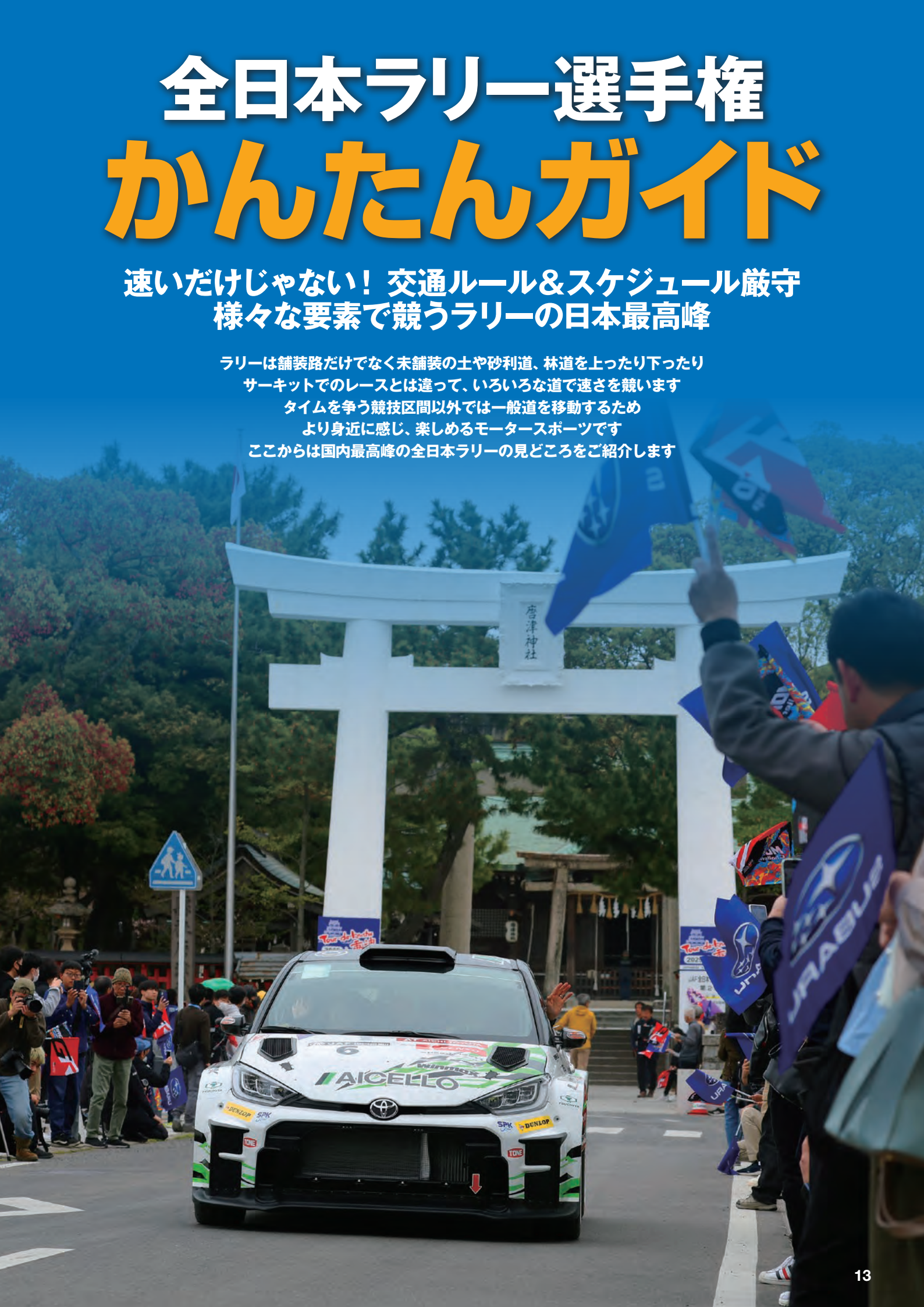
2026年度も、「JRCガイドブック」の制作・配布、速報動画や公式サイトでの情報発信、JAFおよび各主催者、JGR（一般社団法人日本ラリー振興協会）との連携を通じて、全日本ラリー選手権の価値と魅力を国内外へ力強く発信していきます。

関係者の皆さまとともに、日本のラリーを次のステージへ押し上げ、より多くの人がラリーに熱狂する未来を創っていきたいと考えております。引き続き温かいご支援とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

# 全日本ラリー選手権
# かんたんガイド

## 速いだけじゃない！ 交通ルール＆スケジュール厳守
## 様々な要素で競うラリーの日本最高峰

ラリーは舗装路だけでなく未舗装の土や砂利道、林道を上ったり下ったり
サーキットでのレースとは違って、いろいろな道で速さを競います
タイムを争う競技区間以外では一般道を移動するため
より身近に感じ、楽しめるモータースポーツです
ここからは国内最高峰の全日本ラリーの見どころをご紹介します



# ラリーは何を争う競技なの？

## 競技区間は２日間で最長1000㎞も！<br>集中力を維持して走り抜く選手は超人

ラリーはスペシャルステージ（SS）と呼ばれる競技区間を１台ずつタイムアタックをして、競技で設定された全SSの合計タイムで勝敗を競います。SSは一般の交通を遮断し占有された環境で行われますが、SSまでの移動区間（ロードセクションまたはリエゾンと呼びます）は、一般道を交通法規を守って通行します。リエゾンなどの移動時間は指定されていて、到着が早くても遅くてもペナルティとして合計タイムに加算されます。

SSが設定される路面は舗装路（ターマック）や未舗装路（グラベル）、雪や氷の路面など様々な種類があります。また、天候や前走車の影響で路面状況が大きく変化する場合もあり、それらへの対処も勝敗の鍵を握ります。競技の安全を確保するため、全日本ラリー選手権では下見となる事前走行（レッキ）を、SSごとに２回ずつ行い、コーナーの形状や注意点などを記した「ペースノート」と呼ばれるものを作成します。競技中のドライバーは、助手席のコ・ドライバーが読み上げるペースノートの情報を元にタイムアタックを行います。

全日本ラリー選手権は、国内におけるラリー競技の最高峰。基本的に土曜日と日曜日の２日間、SS総走行距離は50～100㎞以上、リエゾンを含めた総走行距離は約300㎞～1000㎞と幅広い形式で開催。一部の大会では金曜日にもセレモニアルスタートやSSを実施する場合もあります。

# どんなクルマがラリーに出ているの？

## 競技専用車両や街でよく見るクルマに加え<br>環境技術を搭載した車両も参戦中

全日本ラリー選手権は、駆動方式や排気量などによって全部で６つのクラスに分けられ、今年から一部クラスに区分の変更がありました。

最上位クラスとなるJN-1クラスには、トヨタGRヤリス・ラリー２やシュコダ・ファビアRSラリー２など４輪駆動の世界自動車連盟（FIA）規定の競技専用車両のほか、各国の統括団体（ASN）による公認車両、日本自動車連盟（JAF）公認のJP4車両が参戦可能です。JN-2クラスは新たにJN-1クラスと同様に競技専用車両のクラスとなりました。排気量2500cc以下の２輪駆動の車両で、このクラスに分類される車両では過去にプジョー208ラリー４やGT86 CS-R3が出場していました。JN-3クラスは、昨年までJN-2クラスに出場していたトヨタGRヤリスやスバルWRX STIなどのハイパフォーマンスカーによるクラスとなりました。JN-4クラスは昨年まで駆動方式により分かれていた旧JN-3クラスと旧JN-4クラスが統合され、後輪駆動のトヨタGR86／スバルBRZや前輪駆動のスズキ・スイフトスポーツが競い合うようになりました。JN-5クラスは、トヨタ・ヤリスやマツダ・デミオなど、1500cc以下のAT車を含む前輪駆動車が対象です。２年目を迎えるJN-Xクラスは、2500cc以下のハイブリッド車や電気自動車などAE車両のクラスで、環境に配慮した技術の車両から高性能車まで幅広い車種での戦いを実現しています。

主な車種：トヨタGRヤリス・ラリー２、シュコダ・ファビアRSラリー２など

主な車種：ホンダCR-Z、トヨタRAV4 PHEV、トヨタ・アクア、トヨタ・ヤリスHEVなど

●全日本ラリーのクラス区分

| | |
|---|---|
| JN-1 | RRN車両を除く気筒容積が2500ccを超える４輪駆動のFIA公認車両、および競技規則に定められた安全要件等に基づくASN公認または承認車両 |
| JN-2 | 気筒容積が2500cc以下で２輪駆動のRRN車両、FIA公認車両、競技規則に定められた安全要件等に基づくASN公認または承認車両 |
| JN-3 | 気筒容積が2500ccを超えるRJ車両および気筒容積区別なしのRRN車両 |
| JN-4 | 気筒容積が1500ccを超え2,500cc以下のRJ車両、RPN車両 |
| JN-5 | 気筒容積が1500cc以下のRJ、RPN車両（AT車含む） |
| JN-X | 駆動方式を問わず、気筒容積が2500cc以下のAE車両 |

### JN-3クラス内で若者が腕を磨く<br>MORIZO Challenge Cup

2024年から全日本ラリーに併催されるカップ戦として「MORIZO Challenge Cup（MCC）」がスタートしました。若手育成を目的に出場ドライバーに年齢制限等を設け、指定車両のGRヤリスも他のJN-3クラスの車両よりも改造範囲を限定し、タイヤもワンメイクで参戦費用抑制とイコールコンディションを実現しています。25年度は大竹直生選手がチャンピオンとなりました。26年はJN-3クラス内で展開され、すでに10名を超える男女の若手ドライバーがMCCに登録。MCCと、MCC女性クラスのチャンピオンをめざし若者たちが繰り広げる熱い戦いに注目です。

# ラリーカーは乗用車とどこが違うの？

## 市販車がベース<br>速さと安全性を追求したマシン

スペシャルステージで0.1秒を争う選手たちのラリーカーは、FIAやJAFの定める車両規定に則って製作されています。規定の範囲内において、安全かつ速く走るためのチューニングや車両の調整が行われ、まさに各チームのノウハウが詰め込まれた１台と言えるでしょう。

ラリーカーにはSSでのタイムアタックでは車両に大きな負荷がかかるため、操縦安定性を確保する強靭なサスペンションや、悪路からエンジン、トランスミッション、車両下部を守るアンダーガード等が装着されます。また、SSでのタイムアタック中に万が一、アクシデントやクラッシュなどが発生した際に乗員を守るロールケージや多点式シートベルト、消火器など様々な安全装備の装着も義務付けられています。

●国内ラリーの主な車両規定

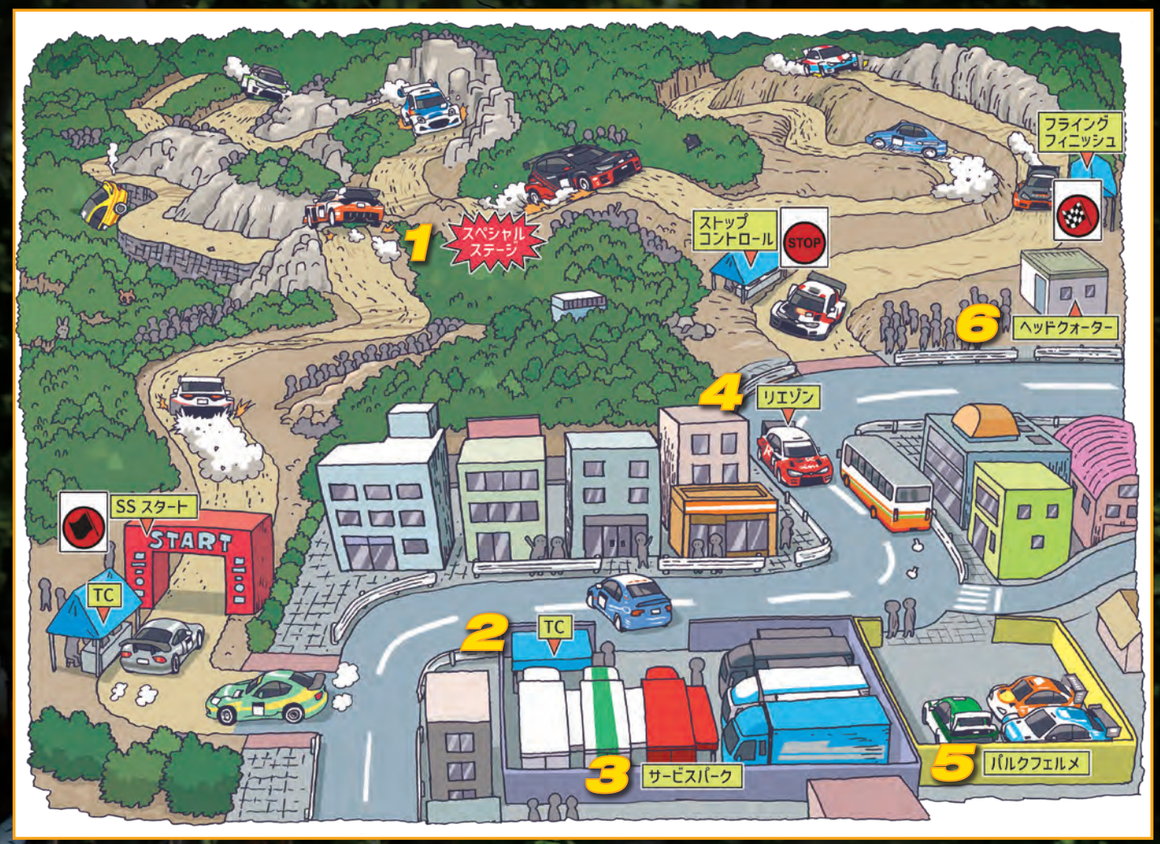
| | |
|---|---|
| FIA公認車両 | ラリーに出場するための臨時運行許可を有するFIAによりグループA、R、N（公認有効期限後８年を経過していない車両を含む）として公認された車両。 |
| ASN公認車両 | ラリーに出場するための臨時運行許可を有するFIAグループRally2と同等に近い性能の車両を作ることを目的とした海外のASNによって公認された車両。 |
| JAF公認車両 | ラリーに出場するための臨時運行許可を有するFIAのRally2公認規定に準じて製作された公認取得前の車両、または海外ASNが規定するグループAP4に準じて製作されたJAFによって公認されたJP4車両。 |
| RRN車両 | FIAによりグループA、R、N（公認有効期限後８年を経過していない車両を含む）として公認された車両で、保安基準に適合し、本編に従った自動車登録番号標（車両番号標）を有する車両。 |
| RJ車両 | JAF登録車両で、国内ラリー参戦車両としては改造範囲が広いもの。 |
| RPN車両 | JAF登録車両で、メーカーラインオフ時の諸元が変更されていないもの。改造範囲はRJ車両よりも狭い範囲に規定されている。 |
| AE車両 | 電気モーター、または電気モーターとエンジンを併用して動力とする車両。改造範囲はRPN車両と同じく狭い範囲に規定されている。 |

日本国内で開催されるラリーに出場できる車両の種類は規則で細かく規定され、安全性や公平性が確保されるようになっています。区分によっては世界選手権のWRC出場車両や国際大会向けの車両も全日本ラリーに出場できるようになっています。

全日本ラリー選手権
かんたんガイド

# 週末はラリーカーが地域を東奔西走

## 全開アタック区間と移動区間
## 地域全体が競技の舞台




ラリーは一般公道を使用して開催されるモータースポーツです。そのため、様々な設備やエリアは、開催地周辺に競技期間中だけ設置される点が大きな特徴で、市町村などの自治体や行政機構の協力の下、開催されています。競技区間であるSSは、スタートやフィニッシュ、途中の走行状況の確認や緊急時の対応、競技中に関係者以外がコースに入らないように監視する人員（オフィシャル）が配置され、常に管理されます。

ラリーカーの整備などを行う「サービスパーク」、大会事務局が置かれる「ヘッドクオーター（HQ）」、車両を一時的に保管するための「パルクフェルメ」などは、開催地周辺の施設や駐車場などに設置されます。ラリーによっては、企業ブースや地元グルメの屋台などが集まる「ラリーパーク」が設置される大会もあり、週末を通じてお祭りのような雰囲気を楽しむことができます。

### 6 ヘッドクオーター

競技全体を運営・管理する本部をヘッドクオーター（HQ）といいます。選手への通達や競技の途中経過や競技結果などが掲示される公式掲示板などが設置されます。

### 5 パルクフェルメ

競技車両の隊列を整える（リグループ）際に、車両保管を行う行為や場所をパルクフェルメと呼びます。パルクフェルメ中は車両の修理や整備を行うことが禁じられています。1日の終わりのリグループは、オーバーナイトリグループと呼び、翌朝までパルクフェルメで車両が保管されます。

### セレモニアルスタート

多くのラリーでは式典としてセレモニアルスタートが実施され、スペシャルステージへと向かう競技車を間近で観ることができる人気イベントです。ラリーによっては選手とハイタッチできるところも。

### 4 リエゾン

SSを除いた移動区間はリエゾン（ロードセクション）と呼ばれ、ラリーカーも交通法規を守って一般道を移動します。沿道で応援する場合は安全な場所で行いましょう。

### 3 サービスパーク

車両の修復や調整などを行う場所がサービスパークです。見学にはチケットが必要なラリーもありますので、観戦情報を確認しましょう。また、周囲の安全に気をつけてください。

### 2 タイムコントロール

競技では、SS以外のあらゆる行動時間が車両ごとに分単位で指定されています。それをチェックするのが各所に設置されたタイムコントロール（TC）です。

### 1 スペシャルステージ

スペシャルステージ（SS）は全開走行を行うタイムアタック区間です。ドライバーたちのテクニックを堪能しましょう。タイムは10分の1秒単位で計測され順位が決まっていきます。

# シリーズチャンピオンはどう決まる？

## 距離や路面で獲得ポイントが変化 タフなラリーは高得点!?

全日本ラリー選手権では、JN-1からJN-Xまでクラスごとに順位を決めています。順位は、各ラリーに設定されたSSをすべて走り切り、ペナルティも含めた合計タイムが最も少ない、つまり最も速く走ったドライバーとコ・ドライバーの組（クルー）がクラス優勝を獲得します。同時に、クラス順位に応じて１位から８位までに得点が与えられ、その年のシリーズを終えた段階で有効得点の合計が最も高い選手がチャンピオンとなります。

得点はクラス別に１位20点、２位15点、３位12点、４位10点、５位８点、６位６点、７位４点、８位３点が与えられます。そして、この得点にラリーごとのSS総距離と路面に応じた得点係数がかけられます。さらにレグ２以降は、レグごとの上位３クルーにレグ別得点が与えられます。ただし、得点の合計は、選手権として成立した競技会が８戦以上の場合は高得点順に６戦の合計得点、７戦以下の場合は高得点順に５戦の合計得点が有効得点となります。

この集計得点は、ラリー終了後にJRCAのホームページで公開されるほか、JAFのホームページにも詳しく掲載されています。

●**クラス別得点（係数早見表）**

| 順位 | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 | 6位 | 7位 | 8位 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 得点×1.0 | 20 | 15 | 12 | 10 | 8 | 6 | 4 | 3 |
| 得点×1.2 | 24 | 18 | 14.4 | 12 | 9.6 | 7.2 | 4.8 | 3.6 |
| 得点×1.5 | 30 | 22.5 | 18 | 15 | 12 | 9 | 6 | 4.5 |

●**得点係数**

| スペシャルステージの距離 | ターマック | グラベル |
|---|---|---|
| 50km～100km未満 | 1.0 | 1.2 |
| 100km以上 | 1.2 | 1.5 |

※やむを得ない理由により競技が短縮された場合において、それまでに終了したSSの総距離が30kmを超えており、かつ競技会審査委員会が適当と認めた場合、当該競技会は選手権として成立したものとし、係数0.8となる。

●**レグ別得点**（※レグ２以降のみ）

| レグ順位 | 1位 | 2位 | 3位 |
|---|---|---|---|
| 得点 | 3点 | 2点 | 1点 |

※レグポイントは、クラスごとにドライバー／コ・ドライバーに上記の点数が与えられる。レグ別得点には得点係数はかからない。

# あると便利な持ち物は？

## 楽しく応援して素敵な週末に ラリー観戦を快適にするコツ

ラリー観戦では、SSの観戦エリアまでの移動、ラリーパークのイベントやサービスパークの見学など、長い距離を歩くことがあります。そのため、歩きやすい靴や服装を身につけましょう。また、雨具や日焼け止め、サングラスなども持参した方がよいグッズとして挙げられます。特に観戦エリアは山間部となる場合も多いので、気温や天候の急な変化にも対応できるよう、着替えなども準備しておきたいところです。雨天の観戦の場合、傘は他の観客の邪魔になったり飛ばされるリスクもあるのでなるべく使用せず、ポンチョやレインウェアなどを持参することをおすすめします。そのほか、携帯できる折りたたみ椅子やレジャーシートなども、持っていくと便利なグッズのひとつ。季節によっては虫刺され対策の薬なども用意できるとさらに安心です。

また、観戦エリアによってはすべての車両が走り終わるまで移動することができないなど、長い時間を過ごすことになりますので、飲食物など事前の準備もお忘れなく。セレモニアルスタート＆フィニッシュ、サービスパーク、スペシャルステージ、リエゾンなど、自分で様々な楽しみ方のプランを立てることができるのも、ラリーの魅力のひとつです。しっかりと事前の観戦計画を練ってラリーを楽しみましょう。

●**ラリー観戦に便利なアイテム**

| |
|---|
| 歩きやすい靴・服装 |
| 日差し対策・帽子や日焼け止め、サングラスなど |
| 雨具・アウトドア用のレインウェアやポンチョがおすすめ・その他に着替えなど |
| 携帯用の椅子やレジャーシート |
| 飲食物・暑い時は保冷バッグがあると便利 |
| ゴミや濡れた服を入れる袋 |
| その他、観戦スタイルや場所にあわせて、移動しやすくなるように持ち物を工夫しましょう |

**各主催者の最新情報はJRCAのウェブサイトからチェック！**

JRCAのウェブサイトでは、全日本ラリー選手権の各主催者ウェブサイトへのリンクやイベントガイド、ラリー終了後にはレポートなど、様々な情報を提供しています。ぜひ右のリンクからアクセスしてみてください。

***https://www.jrca.gr.jp***

CAUTION

**観戦には危険がともないます!!**

ラリーに限らず、モータースポーツ観戦には危険がともないます。主催者の指示に従い、危険な場所には近づかないようにしましょう。また、指定された観戦エリア内であってもコースアウトやクラッシュした部品が飛んでくる可能性もあります。走行中はなるべくコースに背を向けずに、いつでも注意しておくことが必要です。

# 久しぶりに福島ラウンドが登場 モントレーは最終戦に

日本最高峰のラリー競技である全日本ラリー選手権は、その名のとおり北は北海道、南は九州まで全国で開催されており、2026年シーズンも3月から11月にかけて全9戦が行われます。戦いの舞台は、それぞれの開催地ごとに特徴をもったスペシャルステージで、たとえば同じターマックラリーであっても、地方によってスムーズな路面、タイヤへの攻撃性が高い路面など様々な性格を持っているほか、グラベルラリーであれば1台が走るごとに路面状況が変わっていきます。

26年シーズンは新たに福島県を舞台に開催されるラリーin福島伊達が加わり、WRCラリージャパンの5月開催を受けて、モントレーが最終戦へと開催時期を移すことになりました。また、昨年まで佐賀県唐津市を拠点にしてきた九州ラウンドは、拠点を同じ佐賀県の多久市へと変更しています。

多くのラリーで観戦エリアが設けられており、遠方のファンにも楽しんでもらうためにSSのライブ配信など、新たな取り組みを行う主催者も増えてきています。

次頁からのイベントガイドでは、各主催者の公式ウェブサイト（QRコード）も掲載しています。ぜひ最新情報をチェックして、ラリー観戦や周辺地域の観光などを楽しんでください。

**Round 1**
**RALLY 三河湾 2026 Supported by AICELLO**
愛知県 2月27日～3月1日

**Round 2**
**SAGA RALLY NATIONAL CHAMPIONSHIP 2026 SUPPORTED BY BLUE BATTERY caos**
佐賀県 4月3日～5日

**Round 3**
**YUHO Rally 飛鳥 supported by トヨタユナイテッド奈良**
奈良県 5月8日～10日

**Round 4**
**久万高原ラリー**
愛媛県 6月19日～21日

**Round 5**
**2026 ARK ラリー・カムイ**
北海道 7月10日～12日

**Round 6**
**RALLY HOKKAIDO**
北海道 9月4日～6日

**Round 7**
**MSCCラリー in 福島伊達 2026**
福島県 9月25日～27日

**Round 8**
**第53回M.C.S.C.ラリーハイランドマスターズ 2026 supported by カヤバ**
岐阜県 10月16日～18日

**Round 9**
**MONTRE 2026**
群馬県 11月20日～22日

### 2026年全日本ラリー選手権カレンダー

| Rd | 開催日 | イベント名 | 場所 | 路面 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 2/27-3/1 | RALLY 三河湾 2026 Supported by AICELLO | 愛知県 | ターマック |
| 2 | 4/3-5 | SAGA RALLY NATIONAL CHAMPIONSHIP 2026 SUPPORTED BY BLUE BATTERY caos | 佐賀県 | ターマック |
| 3 | 5/8-10 | YUHO Rally 飛鳥 supported by トヨタユナイテッド奈良 | 奈良県 | ターマック |
| 4 | 6/19-21 | 久万高原ラリー | 愛媛県 | ターマック |
| 5 | 7/10-12 | 2026 ARK ラリー・カムイ | 北海道 | グラベル |
| 6 | 9/4-6 | RALLY HOKKAIDO | 北海道 | グラベル |
| 7 | 9/25-27 | MSCCラリー in 福島伊達 2026 | 福島県 | ターマック |
| 8 | 10/16-18 | 第53回M.C.S.C.ラリーハイランドマスターズ2026 supported by カヤバ | 岐阜県 | ターマック |
| 9 | 11/20-22 | MONTRE 2026 | 群馬県 | ターマック |

## Round 1

2025年シーズン、山本悠太／立久井和子は開幕戦の三河湾を皮切りに６勝をマークし、JN-3クラス３連覇を達成した。

# RALLY 三河湾 2026 Supported by AICELLO

**開催地** 愛知県　**開催期間** 2月27日～3月1日　*https://rally-mikawawan.com*

●SS路面：ターマック　●総走行距離：:約250km　●主催者：モンテ オート スポーツクラブ

## 華やかな開幕戦、愛知こどもの国での新SSが登場

今シーズンで３回目となるラリー三河湾は、今年も開幕戦としての開催。例年同様、愛知県蒲郡市を拠点に、隣接する市町の山間部にステージが設けられ、三河湾を望む道幅の広いハイスピードステージから、狭くツイスティな林道を使用したテクニカルなステージなど、全16SSが予定されています。今年は、あじさいの名所として知られる有料道路の三ヶ根山（さんがねさん）スカイラインや愛知こどもの国の園内道路を使用した特設ステージも新たに加わり、見どころ満載。ギャラリーステージは有料１カ所、無料３カ所の計４カ所が予定されており、金曜日の夕方からは、JRおよび名鉄蒲郡駅の南口駅前特設会場でセレモニアルスタートも実施されます。

**アクセス情報**

クルマの場合、東名高速道路豊川ICから約35分、または音羽蒲郡ICから約30分でメイン会場となるラグーナエリアにアクセスすることが可能です。鉄道であれば、JR東海道本線の三河大塚駅からも徒歩で10～15分。また、ラリー期間中はJR蒲郡駅南口からメイン会場に往復シャトルバスが運行されます。

**開催地はこんなところ**

### 観光スポット多数。温泉と海産物を楽しめる

ラリーの拠点は、愛知県で最も規模の大きいヨットやクルーザーのマリーナに立地する人気のテーマパーク「ラグーナテンボス」に隣接しており、商業施設である「フェスティバルマーケット」では美味しい海産物など、ご家族連れも終日楽しむことができます。蒲郡市は、明治時代から風光明媚な三河湾を中心とした愛知県で最も規模の大きな観光地群で、市内に西浦温泉、形原温泉、蒲郡温泉、三谷温泉と４つの温泉地を中心に多くの観光スポットが存在します。

## Round 2

マツダ・デミオをドライブし、JN-5クラスで3勝をマーク。自身初の全日本ラリー選手権タイトルを獲得した河本拓哉／有川大輔。

# SAGA RALLY NATIONAL CHAMPIONSHIP 2026 SUPPORTED BY BLUE BATTERY caos

**開催地** 佐賀県　**開催期間** 4月3日～5日　*https://gravelmotorsportsclub.com*

●SS路面：ターマック　●総走行距離：約305km　●主催者：グラベルモータースポーツクラブ

## 開催拠点を唐津市から、多久市へと変更

これまで長きにわたり開催してきた佐賀県唐津市から同県多久市へと拠点を移し、名称も「ツール・ド・九州」から「SAGA RALLY NATIONAL CHAMPIONSHIP SUPPORTED BY BLUE BATTERY caos」へとリニューアル。サービスパークは多久市内の天山多久温泉TAQUA（タクア）に設置され、コースもこれまで使用してきた実績のあるステージをベースにレイアウト変更を行ったり、新たなステージを設けたりと、初参加の選手からベテラン選手までが楽しめる新鮮なコース設定を実現しました。SS総距離は100kmを超える全12SSを予定。また、レグ1前日の金曜日夕方には、JR佐賀駅前の交流広場でファンと選手の交流を目的とした「ウェルカムラリーショー」など、様々なイベントが企画されています。

**アクセス情報**

サービスパークが置かれる「天山多久温泉TAQUA」へは、鉄道を利用すると、JR鹿児島本線で佐賀駅へ向かい、JR唐津線に乗り換えて多久駅まで行き、駅からはタクシーなどを利用してください。博多駅や福岡空港からクルマを利用する場合、九州自動車道と長崎自動車道を経由し、多久ICで降りて一般道で10分ほど走ります。

**開催地はこんなところ**

### 「孔子の里」として知られる佐賀県の“へそ”

佐賀県中部に位置する多久市は「孔子の里」として知られる歴史文化の街。佐賀市・唐津市・伊万里市・武雄市からのアクセスも良好です。最大の見どころは、1708年に多久鍋島家によって建立された「多久聖廟」。日本に現存する唯一の孔子廟として国の重要文化財に指定されています。朱塗りの建築と静謐な佇まいは、中国儒教文化の影響を今に伝える貴重な存在となっています。名物の「多久まんじゅう」は黒糖を使った生地に、ほどよい甘さのあんこを包んだ郷土菓子です。

写真提供：佐賀県観光連盟

## Round 3

24年シーズンは悔しいポイント差でタイトルを逃した高橋悟志／箕作裕子。３勝をマークし、見事リベンジを果たしている。

# YUHO Rally 飛鳥 supported by トヨタユナイテッド奈良

**開催地** 奈良県　**開催期間** 5月8日～10日　*https://rallyasuka.com*

●SS路面：ターマック　●総走行距離：約380km　●主催者：モータースポーツクラブシンフォニーオブ京都（共催）大阪電気通信大学体育会自動車部

## リエゾンに社寺仏閣や遺跡、史跡などが数多く点在

昨シーズンの初開催から、今年で２回目を迎えるラリー飛鳥。昨年と同じく、奈良県天理市の「天理教 北大路乗降場」にサービスパークを設置し、コースは天理市近隣の市町村のターマック林道を予定しています。昨年からの設定変更を行うステージが３カ所、新ステージが３カ所、計６ステージの２ループ、全12SS SS総距離82kmとなる見とおしです。昨年ファンからも好評だった「名阪スポーツランド」でのギャラリーステージやデモンストレーションランのほか、今年は地元関係者を招待しての特別観戦ステージも予定しています。さらに、リエゾンルートには世界遺産の社寺仏閣や遺跡、史跡なども数多く点在しているため、ラリーだけでなく観光も楽しむことができます。

**アクセス情報**

奈良県北中部に位置する天理市は、日本最古の道「山の辺の道」をはじめ数々の文化財や史跡が散在し、訪れる人を古代のロマンへと誘います。市内まで電車を利用する場合は大阪駅からJRで約55分、京都駅からも約55分、クルマの場合は西名阪松原ICから約30分、名古屋からは東名阪～名阪国道経由で約２時間を要します。

**開催地はこんなところ**

### 1300年の古都には注目エリアが数多く点在

1300年もの歴史を誇る古都、奈良には数多くの観光スポットが存在します。奈良公園、東大寺、石舞台古墳、キトラ古墳など、多くの歴史遺産に囲まれており、国宝・重要文化財の建築・仏像が数多く残されています。豊かな自然も多く、四季折々の風景は1000年以上にわたり訪れる人を魅了してきました。過去と現代が美しく調和した町並みには、心癒やされるレストランやカフェも数多く点在。三輪素麺や柿の葉すしなど、グルメもぜひ楽しんでください。

## Round 4

25年シーズンからトヨタRAV4 PHEVを投入した天野智之／井上裕紀子。圧倒的な強さを見せつけ、全戦で勝利を持ち帰った。

# 久万高原ラリー

**開催地** 愛媛県　**開催期間** 6月19日～21日　*https://gako.jp/mac/*

●SS路面：ターマック　●総走行距離：約301km　●主催者：松山オートクラブ

## 標高1000mを超える高地ステージを走行

昨年の10月から6月へと開催時期が移動した久万高原ラリーは、今年もターマックシリーズの一戦として開催。面積の約９割を森林が占める林業の町、愛媛県久万高原町の「ハイランドパークみかわ」を拠点に、四国カルスト北端の大川嶺や美川地区の山間部など、標高1000mを超える高地がステージとなっているため「天空のラリー」とも呼ばれています。牧歌的な風景が広がるハイスピードセクションから、木々に覆われたツイスティでチャレンジングなセクション、山間部特有の急勾配なセクションなど、路面とリズムの変化が多いのもこのラリーの特徴です。また、20kmを超えるロングステージが設定されることも多く、走り応えのあるラリーとしてクルーからの人気が高いイベントでもあります。

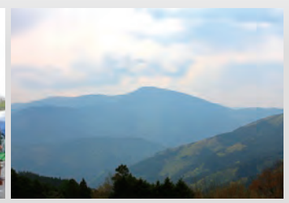
**アクセス情報**

HQやサービスパークが集約されるハイランドパークみかわ（旧名称・美川スポーツランド）までは、クルマの場合、松山自動車道の松山ICから国道33号線を使い、松山市街地から約90分。また、久万高原町の国道440号（33号）からサービスに向かう道中で競技車とすれ違う可能性があるため、注意が必要です。

**開催地はこんなところ**

### 四国カルストの自然美と名産品が魅力

愛媛県中央部に位置する久万高原町は、「四国の軽井沢」と呼ばれるほど大自然が広がる町です。平均標高が800mと高く、愛媛県で一番大きな面積を持つ町のほとんどが高原と森林に覆われています。日本三大カルストのひとつに数えられる景勝地、四国カルストを東西に貫く「四国カルスト公園縦断線」は、人気のドライブルートのひとつ。地元の名産品には、おこう饅頭、みかわソーメン、久万山醤油などがありますが、「道の駅 みかわ」のソフトクリームも人気があります。



奴田原文雄／東 駿吾はGRヤリス・ラリー２でカムイを制覇。20年の新城ラリー以来となる、全日本トップカテゴリー勝利を手にした。

## Round 5

# 2026 ARK ラリー・カムイ

**開催地** 北海道　**開催期間** 7月10日～12日　*https://www.team-ark.jp*

●SS路面：グラベル　●総走行距離：約500km　●主催者：アーク・オートクラブ・オブ・スポーツ

## ニセコ町をベースに100km以上のグラベルSS

シーズン初のグラベルラウンドとして開催されるラリー・カムイは、今年もSS総距離が100kmを超える見込み。2025年と同様にニセコ町をホストタウンとし、ステージは周辺の蘭越町・倶知安町・真狩村・京極町のテクニカルなグラベル林道をメインとしたフォーマットが計画されています。また、ギャラリーエリアの増設や蘭越町の市街地を利用したSSSなども予定しており、小さいお子様連れやラリー観戦初心者にも見やすいラリーになるとのこと。グラベルならではの豪快な走りとドライビングテクニックを楽しみつつ、ニセコアンヌプリ国際スキー場に設置されたサービスパークで行われるメカニック達による早業・凄技のマシンメンテナンスにも注目です。

**アクセス情報**

サービスパークが設定されるニセコアンヌプリ国際スキー場へのクルマでのアクセスは、新千歳空港からは道道16号線→国道276号線→国道５号線を経由して約２時間。札幌市内からは、国道230号線から中山峠を経由し国道276号線で約２時間が目安となります。

**開催地はこんなところ**

### 羊蹄山を望む絶景

冬には一面の雪に覆われるニセコも、ラリー開催時期は緑の絨毯に覆われ、避暑地として大きな人気を集めています。蝦夷富士と呼ばれる羊蹄山は、７月から８月にかけて高山植物が花を咲かせ、130種類以上の野鳥が生息しています。大自然があふれるニセコにはトレッキング客が国内外から訪れます。SSが設けられる蘭越町は、ブランド米の「らんこし米」がイチオシ。ニセコ連峰から湧き出るミネラルを豊富に含んだお米は絶品で、日本酒や甘酒などの加工品にも力を入れています。

タフなラリー北海道を新井大輝／立久井大輝のシュコダ・ファビアR5が勝利、シーズン３勝目を挙げた。

## Round 6

# RALLY HOKKAIDO

**開催地** 北海道　**開催期間** 9月4日～6日　*http://www.rally-hokkaido.com/jp/*

●SS路面：グラベル　●総走行距離：約700km　●主催者：AG.メンバーズスポーツクラブ北海道

## 平均速度100km/hを超えるハイスピードグラベル

日本を代表する穀倉地帯 十勝地方を舞台に行われるラリー北海道は、平均速度100km/hを超えるSSが設定される国内屈指のハイスピードグラベルラリーです。WRCやAPRCといった国際格式イベントでも使用されたパウセカムイやヤムワッカなどの名物ステージ、ラリーファンのあいだで聖地として知られる「陸別サーキット」などを中心にSS総距離約110km、全12SSを予定しています。今年もXCRスプリントカップシリーズが併催されるため、クロスカントリーマシンと走りを比較してみるのも面白いかもしれません。ギャラリーステージは計４カ所を計画しており、４日の夕方には恒例となった帯広駅前でのラリーショー＆セレモニアルスタートも予定しています。

**アクセス情報**

サービスパークが設置され、ラリーの拠点となる札内川河川敷の北愛国交流広場までは、帯広駅からクルマで20分、とかち帯広空港からは同30分のアクセス。観戦エリアが設置される陸別サーキットへは、道東自動車道・足寄ICから国道242号線を通り、約50分となっています。

**開催地はこんなところ**

### 北海道の秋の味覚と人気スポットを満喫

北海道十勝地方は日本を代表する穀倉地帯です。主にジャガイモ、小麦、とうもろこし、小豆などが有名ですが、長芋や砂糖の原料となるてん菜、ごぼう、かぼちゃなどの栽培も盛んで、これらを使用した高品質なスイーツも各所で販売されています。また、レグ１の中心となる陸別町にある銀河の森天文台では近年オーロラが観測されたほか、日本で唯一の公営競技として開催される帯広市の「ばんえい競馬」や、レグ２で使用予定の池田町にある「いけだワイン城」なども人気のスポットです。

Round 7

8年ぶりの開催は、県北部に舞台を移してのターマックラリー。誰もが初めてのコースとなるため、高い対応力が求められそうだ。

## MSCCラリー in 福島伊達 2026

開催地 福島県　開催期間 9月25日～27日　https://msccrally.com

●SS路面：ターマック　●総走行距離：約500km　●主催者：マツダスポーツカークラブ

### 福島県でのラリーがターマックイベントとして復活

福島県では2018年以来、8年ぶりの全日本ラリー選手権開催となるMSCCラリー in 福島伊達。開催エリアはこれまでの棚倉・鮫川、いわきとは異なり、県北部、霊山・吾妻連峰・蔵王連峰を望む豊かな自然と歴史・文化に恵まれた伊達市が拠点となります。路面も以前のグラベルからターマックへと変更され、サービスパークは市内の保原総合公園に設置。ステージは伊達市・南相馬市・飯舘村のターマック林道を舞台に、計75kmが予定されています。これまでにまったくラリーが開催されたことがないエリアのため、過去のデータや経験が通用しない全選手が横一線という予測不能な展開が期待されます。ギャラリーステージは27日に予定しているとのこと。

**アクセス情報**

ラリーの起点となる「保原総合公園」へは、東京駅から東北新幹線で福島駅まで約1時間30分。福島駅で阿武隈急行線に乗り換え、保原駅で下車。駅からはタクシーで約5分、徒歩なら約20分ほど。クルマを使う場合は、都内から東北自動車道を北上し、福島西ICで下車。国道13号などを経由し、約30分で到着します。

**開催地はこんなところ**

#### 豊かな自然と歴史、「あんぽ柿」などの名産も

伊達市は、豊かな自然と歴史・文化に恵まれた街。東には国の史跡・名勝に指定されている名峰「霊山」、西には雄大な吾妻の峰が広がり、四季折々の美しい風景を楽しむことができます。名物「あんぽ柿」や桃をはじめとする果物、新鮮な野菜が生産されており、全国でも有数の産地として知られています。また、戦国大名・伊達氏発祥の地であり、南北朝時代の武将・北畠顕家が霊山に城を築くなどの歴史ある地域。江戸時代以降には、養蚕業やニット産業を中心に発展してきました。

Round 8

2024年シーズンからトヨタGRヤリスで最高峰クラスを戦う石黒一暢／穴井謙志郎。25年は全戦で得点、安定感を見せた。

## 第53回M.C.S.C.ラリーハイランドマスターズ2026 supported by カヤバ

開催地 岐阜県　開催期間 10月16日～18日　https://mcsc-rally.net/highland-masters/

●SS路面：ターマック　●総走行距離：約350km　●主催者：松本カースポーツクラブ

### 国指定史跡「高山陣屋」前をリエゾンとして走行

全日本ラリーのなかでもっとも長い歴史と伝統を誇るハイランドマスターズは、今年も岐阜県の飛騨高山を舞台に開催されます。サービスパークは高山市位山交流広場に設置、コースは例年同様に高山市郊外の山間部を走るターマック林道を中心としたダイナミックかつツイスティなステージ全12SSを予定。また、17日の午前中には高山市役所でのセレモニアルスタートの実施を予定しており、その後のリエゾン（移動区間）では、今年も江戸時代の城下町の面影を色濃く残す国の重要伝統的建造物群保存地区「古い町並」や国指定史跡の「高山陣屋」の前を通るルートが計画されています。歴史・文化とラリーカーが融合した、ここでしか撮ることのできない1枚を写真に収めることができる一戦です。

**アクセス情報**

岐阜県高山市までのアクセスは、中央自動車道・松本ICから国道158号線を経由しておよそ2時間。また、東海北陸自動車道の飛騨清見ICから約30分。サービスパークが設置される「位山交流広場」と観戦ステージが設置される予定の旧「ひだ舟山スノーリゾートアルコピア」までは、いずれも高山市内からクルマで40分ほど。

**開催地はこんなところ**

#### 江戸時代の街並みが残る「飛騨の小京都」

飛騨高山の旧高山市中心部は、江戸時代以来の城下町・商家町の姿が保全されており、「飛騨の小京都」と呼ばれています。かつて商人の町として栄えたこの地域は、国選定重要伝統的建造物保存群地区に指定されており、江戸時代当時の街並みと雰囲気を味わうことができます。朝市や高山陣屋も人気のスポットで、飛騨牛、朴葉みそ、地酒、鶏（けい）ちゃん、高山ラーメンなどのグルメも豊富。また伝統工芸品の「一位一刀彫」もおススメです。

24年のMORIZO Challenge Cupを制した山田啓介／藤井俊樹は最終戦で自身初の全日本選手権チャンピオンを掴み獲った。

## Round 9

# MONTRE 2026

**開催地** 群馬県　**開催期間** 11月20日～22日　*https://rally-montre.com*

●SS路面：ターマック　●総走行距離：約360km　●主催者：M.O.S.C.O.

## 開催時期を6月から11月へ、碓氷峠旧道は健在

昨年まで6月に行われていたモントレーが開催時期を11月に移し、シリーズ最終戦として開催されます。ホームタウンは今年も群馬県安中市となる見とおしで、ステージは安中市と高崎市の林道をメインとした例年よりもコンパクトな設定になる予定。選手・ギャラリー双方から好評の碓氷峠旧道はもちろん、これまでに使用していなかった林道を含め、全12SSを絶賛準備中とのこと。ギャラリーステージは碓氷峠旧道ほか1カ所を予定しており、昨年から大幅に拡充される見込みです。これまでとは異なる季節での開催かつ、シリーズ最終戦ということもあり、各クラスでチャンピオンを掛けた限界ギリギリの緊張感のあるバトルが展開される可能性も高くなりそうです。

**アクセス情報**

サービスパークが設置される安中しんくみスポーツセンターへのクルマでのアクセスは、上信越道・富岡ICから13kmほど。電車では信越本線の安中駅が最寄り駅で、そこから約3.5kmです。

### 開催地はこんなところ

#### 温泉と宿場町の歴史を感じさせるエリア

ホームタウンの安中市は、東は高崎市、西は長野県軽井沢町に接し、利便性の高いエリアとして知られています。「温泉マーク」の発祥の地とされる磯部温泉や、碓氷峠鉄道文化むら、峠の釜飯で有名な横川で知られています。また、中山道の街道上にあり、古くから交通の要所として栄えた歴史をもっている点も大きな特徴です。江戸時代には、板鼻・安中・松井田・坂本の宿場町が賑わいをみせ、中山道の重な関所である碓氷関所も今の横川に設置されていました。

観光ぐんま写真館提供　https://gunma-kanko.jp/

# JRC Driver / Co-Driver Profile

[選手名鑑] *各クラスの表記は2025年度のもの

## 2025 Champions

### JN-1 Class Driver
**ヘイキ・コバライネン**
Heikki Kovalainen フィンランド

2025年参戦車両 トヨタGRヤリス・ラリー2
2025年ランキング JN-1クラスチャンピオン

F1、SUPER GTで活躍した後、16年から全日本ラリーに参戦を開始。21年にJN-2クラス、22年、23年はシュコダ・ファビアR5でJN-1クラスを連覇した。上行大動脈瘤の開胸手術による休養を経て、25年は大混戦のJN-1タイトル争いの末、トヨタGRヤリス・ラリー２で全日本初王者となった。

### JN-1 Class Co-Driver
**北川紗衣**
Sae KITAGAWA 北海道

2025年の主なドライバー ヘイキ コバライネン
2025年ランキング JN-1クラスチャンピオン

2007年に全日本ラリーにデビューし、10年にJN-1クラスでコ・ドライバー王者に。16年からヘイキ・コバライネンとコンビを組み始めた。24年、コバライネン欠場中は田口勝彦を迎えて、トヨタGRヤリス・ラリー２の慣熟に努め、25年は初戦からコバライネンと奮闘。タイトル奪還を支えた。

### JN-2 Class Driver
**山田啓介**
Keisuke YAMADA 愛知県

2025年参戦車両 トヨタGRヤリス
2025年ランキング JN-2クラスチャンピオン

ラリー歴２年目の2022年から全日本ラリーJN-3クラスに出場し、いきなり２勝。23年はJN-2クラスでも１勝を挙げた。24年、創設初年のMORIZO Challenge Cup（MCC）で、開幕５連勝を飾って初代王者に輝くと、25年はJN-2クラスで最終戦まで争い、悲願の初タイトル獲得。26年は連覇を狙う。

### JN-2 Class Co-Driver
**藤井俊樹**
Toshiki FUJII 愛知県

2025年の主なドライバー 山田啓介
2025年ランキング JN-2クラスチャンピオン

2015年に二瓶崇のコ・ドライバーとして全日本ラリー初参戦。16年には東日本ラリー選手権で王者に。22年から全日本デビューの山田啓介とコンビを組み、24年はMCCで山田のタイトル獲得を支えた。25年は、貝原聖也とのMCC卒業生同士の熾烈なJN-2クラスタイトル争いを山田とともに勝ち切った。

### JN-3 Class Driver
**山本悠太**
Yuta YAMAMOTO 愛知県

2025年参戦車両 トヨタGR86
2025年ランキング JN-3クラスチャンピオン

2013年、23歳で全日本ダートトライアル王者になると翌年も連覇。16年からラリーに転向し全日本ラリー参戦２戦目で初優勝を飾る。19年には全日本ラリーでもチャンピオンを獲得。JN-3クラスに参戦した23年に圧倒的な強さで２度目のタイトルを獲得すると、24年、25年と連覇を果たした。

### JN-3 Class Co-Driver
**立久井和子**
Kazuko TACHIKUI 東京都

2025年の主なドライバー 山本悠太
2025年ランキング JN-3クラスチャンピオン

2003年に全日本ラリーにデビュー。12年から全日本でのラリー活動を休止した後、20年に復帰し、21年から山本悠太のコ・ドライバーを務める。21年はJN-1クラス、22年はJN-3クラスに出場し、23年に自身初となる全日本チャンピオンを獲得すると、25年は山本とともに３連覇を達成した。

### JN-4 Class Driver
**高橋悟志**
Satoshi TAKAHASHI 愛知県

2025年参戦車両 スズキ・スイフトスポーツ
2025年ランキング JN-4クラスチャンピオン

2002年に全日本ラリーの２輪駆動部門に初参戦、15年に全日本初タイトルを獲得した。再びフル参戦した24年は、JN-4クラスで最多ポイントを挙げるも規定によりタイトルを逃し、25年はマシントラブルに悩まされ続けながらも、諦めない姿勢を貫きとおして、10年ぶりのタイトルを手にした。

### JN-4 Class Co-Driver
**箕作裕子**
Yuko MITSUKURI 神奈川県

2025年の主なドライバー 高橋悟志
2025年ランキング JN-4クラスチャンピオン

1987年からラリーを始め、90年に夫である箕作有俊のコ・ドライバーで全日本ラリーに初参戦。98年に全日本初タイトルを獲得。2008年から高橋悟志とコンビを組み始め、24年の高橋の全日本フル参戦復帰以降も高橋を支えた。一方、地区戦など幅広いラリーでも活躍する多忙なコ・ドライバー。

### JN-5 Class Driver
**河本拓哉**
Takuya KOUMOTO 広島県

2025年参戦車両 マツダ・デミオ
2025年ランキング JN-5クラスチャンピオン

2021年にコ・ドライバーとして全日本デビュー。23年からドライバーとしてJN-5クラスに参戦し、３戦目で全日本初優勝を挙げた。24年は随所でベテランを圧倒する驚異的な速さを披露して、２勝目をマーク。25年は安定感も高めて、王者・松倉拓郎を退けて、悲願の初タイトルを手にした。

### JN-5 Class Co-Driver
**有川大輔**
Daisuke ARIKAWA 佐賀県

2025年の主なドライバー 河本拓哉
2025年ランキング JN-5クラスチャンピオン

2023年に河本と組んで全日本デビュー戦に挑むと、いきなり全日本初優勝を挙げた。河本が絶大な信頼を寄せるノートコールで成長を支え、25年は全日本でコ・ドライバー、九州でドライバーのダブルタイトルを獲得。26年はドライバーとして、トヨタ・ヤリスで全日本JN-5クラスに参戦する。

### JN-X Class Driver
**天野智之**
Tomoyuki AMANO 愛知県

2025年参戦車両 トヨタRAV4 PHEV、トヨタ・アクア
2025年ランキング JN-Xクラスチャンピオン

2003年に当時の全日本ラリー２輪駆動部門Ａクラスで全日本初チャンピオンを獲得。以来、通算17回のチャンピオンを獲得、さらに25年まで12年連続タイトル獲得と歴代全日本ドライバーの最多＆最長記録を更新中。25年は新生JN-Xクラスにトヨタ RAV4 PHEVを投入し、初代王者となった。

### JN-X Class Co-Driver
**井上裕紀子**
Yukiko INOUE 愛知県

2025年の主なドライバー 天野智之
2025年ランキング JN-Xクラスチャンピオン

2000年に天野智之のコ・ドライバーとして全日本に初出場して以来、ともに全日本ラリーを戦う。新生JN-Xクラスへの参戦となった25年は、第７戦北海道の時点で16年連続18回目となるタイトル獲得を決め、ドライバーとコ・ドライバーを含めて、全日本ラリー史上最多記録を達成した。



## Top Competitors

### JN-1 Class Driver
**勝田範彦**
Norihiko KATSUTA 愛知県

2025年参戦車両 トヨタGRヤリス・ラリー2
2025年ランキング JN-1クラス2位

1995年から2020年までスバル車で全日本ラリーを戦い、21年はトヨタGRヤリスで９回目のタイトルを手にした。23年はGRヤリスJP4-ラリー２で、ラリー２開発の実戦データ収集に貢献。24年はGRヤリス・ラリー２のデビューウインを飾った。25年は開幕２連勝を挙げ、最後までタイトルを争った。

### JN-1 Class Co-Driver
**保井隆宏**
Takahiro YASUI 神奈川県

2025年の主なドライバー 勝田範彦
2025年ランキング JN-1クラス2位

2006年に全日本ラリーにデビュー。現在、国内でも数少ないプロフェッショナル・コ・ドライバー。18年にはアジア・パシフィックラリー選手権でFIAタイトルを獲得したほか、近年はアジアクロスカントリーラリーにも参戦中。全日本では、25年から勝田範彦のコ・ドライバーを務める。

### JN-1 Class Driver
**新井大輝**
Hiroki ARAI 群馬県

2025年参戦車両 シュコダ・ファビアR5
2025年ランキング JN-1クラス3位

2015年～18年までフィンランドでラリー修行をした後、20年に全日本ラリーJN-1クラス王者に。24年は旧型のシュコダ・ファビアR5で２回目のタイトルを獲得した。25年はアジア・パシフィックラリー選手権でFIAタイトルも獲得。26年はトヨタGRヤリス・ラリー２で全日本タイトル奪還を狙う。

### JN-1 Class Co-Driver
**立久井大輝**
Hiroki TACHIKUI 東京都

2025年の主なドライバー 新井大輝
2025年ランキング JN-1クラス3位

2021年に全日本ラリーデビュー。東日本、中部近畿などのラリーシリーズも含め、様々なドライバーのペースノートを読む。23年のWRCジャパンでは、新井大輝のコ・ドライバーとして参戦し、プジョー208ラリー４で総合10位という快挙に貢献。25年は新井とともにAPRC王者にも耀いた。

### JN-1 Class Driver
**奴田原文雄**
Fumio NUTAHARA 北海道

2025年参戦車両 トヨタGRヤリス・ラリー2
2025年ランキング JN-1クラス4位

1994年から2020年まで、全日本ラリーの最上位クラスでタイトルを９回獲得。06年にはWRCモンテカルロでPWRC優勝も。21年からトヨタGRヤリスで参戦し、23年にJN-2クラスで通算11回目のタイトルを獲得。24年はGRヤリス・ラリー２で最上位クラスに復帰し、25年は復帰後初勝利を挙げた。

### JN-1 Class Co-Driver
**東駿吾**
Shungo AZUMA 兵庫県

2025年の主なドライバー 奴田原文雄
2025年ランキング JN-1クラス4位

2017年にラリーデビュー、20年の全日本ラリーJN-5クラスで全日本初優勝を飾る。21年に奴田原文雄のコ・ドライバーに抜擢され、23年に自身初となる全日本タイトルを獲得。24年に奴田原がJN-1クラスに上がってからもコンビを継続し、今季は６年目に突入する東大出身の理系コ・ドライバー。

### JN-1 Class Driver
**鎌田卓麻**
Takuma KAMADA 栃木県

2025年参戦車両 シュコダ・ファビアR5
2024年ランキング JN-1クラス5位

若手時代にAPRCなど海外ラリーを舞台にラリー修行を重ね、2000年から本格的に全日本を転戦。14年にはスバルBRZで全日本ラリーと全日本ダートトライアルで、ダブルタイトルを獲得した。25年に全日本ラリーのマシンをシュコダ・ファビアR5にスイッチ。WRCジャパンではマスターズ優勝を飾った。

### JN-1 Class Co-Driver
**松本優一**
Yuichi MATSUMOTO 群馬県

2025年の主なドライバー 鎌田卓麻
2025年ランキング JN-1クラス5位

SUPER GTで活躍するレーシングドライバーを叔父に持ち、両親もラリーの選手やオフィシャルとして活躍するモータースポーツ家系で育つ。2016年に全日本ラリーデビュー、20年から鎌田卓麻とコンビを組む。25年に鎌田がシュコダ・ファビアR5にスイッチしてからも、隣で冷静に支えている。

### JN-1 Class Driver
**福永修**
Osamu FUKUNAGA 京都府

2025年参戦車両 シュコダ・ファビアRSラリー2
2025年ランキング JN-1クラス6位

1998年に全日本デビュー、21年からシュコダ・ファビアR5をドライブし、早くから全日本にFIA公認車両を投入した。近年は海外ラリーにも精力的に出場し、WRCジャパンでも活躍している。25年は最新型のファビアRSラリー２にスイッチしており、今年もトップリザルトを狙う。JRCA現会長。

### JN-1 Class Co-Driver
**齊田美早子**
Misako SAIDA 京都府

2025年の主なドライバー 福永修
2025年ランキング JN-1クラス6位

2016年に全日本デビュー、17年から福永修のコ・ドライバーを務める。サービスパークを盛り上げる明るい人柄は、全日本はもちろん海外でも注目を集め、動画サイトでも気概あふれるノートコールが大人気。今シーズンも、福永とともに最上位クラスのシリーズチャンピオンを目指し奮闘を続ける。

### JN-1 Class Driver
**石黒一暢**
Motonobu ISHIGURO 岐阜県

2025年参戦車両 トヨタGRヤリス
2025年ランキング JN-1クラス7位

2022年に発足した監督、ドライバー、エンジニア、メカニックを社員が務めるカヤバのワークスチームで、社員ドライバーとして活躍。23年の全日本最終戦JN-5クラスで全日本デビュー、チームがJN-1クラスにステップアップした24年から、同じく社員クルーの穴井謙志郎と組み、オールカヤバで戦う。

### JN-1 Class Co-Driver
**穴井謙志郎**
Kenshiro ANAI 愛知県

2025年の主なドライバー 石黒一暢
2025年ランキング JN-1クラス7位

オールカヤバ社員のワークスチームで、23年の全日本最終戦で横尾芳則のコ・ドライバーとして全日本デビュー。24年から、石黒一暢とともに社員同士クルーとして、トヨタGRヤリスでJN-1クラスでの参戦を開始。２シーズンをとおして貴重な経験を蓄積。26年もこのコンビでの３シーズン目に臨む。

# JRC Driver / Co-Driver Profile

[選手名鑑] *各クラスの表記は2025年度のもの

## Top Competitors

### JN-2 Class Driver 大竹直生
Nao OTAKE 東京都

2025年参戦車両 トヨタGRヤリス
2025年ランキング JN-2クラス2位

17歳でヌタハラ・ラリースクールのジュニアチームに抜擢され、21年に全日本JN-3クラス王者に。22年からフィンランドでラリー修行を重ねた。24年からMORIZO Challenge Cup（MCC）に参戦、25年に王座獲得。26年はトヨタGRヤリス・ラリー２でJN-1クラスにステップアップする。

### JN-2 Class Co-Driver 橋本美咲
Misaki HASHIMOTO 栃木県

2025年の主なドライバー 大竹直生
2025年ランキング JN-2クラス2位

2015年にコ・ドライバーとして全日本デビュー。20年にはCUSCO RACING女性ドライバーオーディションで育成枠に抜擢され、ドライバーとして参戦経験を持つ。24年の全日本北海道で大竹直生と初めてコンビを組み、25年はMCCタイトルを獲得。JN-1クラスに挑む26年もコンビを継続する。

### JN-2 Class Driver 貝原聖也
Seiya KAIHARA 愛知県

2025年参戦車両 トヨタGRヤリス
2025年ランキング JN-2クラス3位

ADVICSの社員有志が集まって結成したラリーチームで、TGRラリーチャレンジに参戦。24年に創設初年のMORIZO Challenge Cup（MCC）で全日本デビューし、最終戦でMCC初優勝を挙げた。25年にはJN-2クラスでも１勝を挙げ、最終戦まで山田啓介、大竹直生とクラスタイトルを争った。

### JN-2 Class Co-Driver 豊田耕司
Koji TOYOTA 北海道

2025年の主なドライバー 大倉聡
2025年ランキング JN-2クラス3位

2013年第７戦北海道で全日本デビュー、15年から大倉聡のコ・ドライバーとして全日本を転戦。19年に大倉とともにJN-6クラスで全日本初タイトルを獲得した。23年は豊田のみ２度目の全日本王者に輝いている。25年から大倉とともにJN-2クラスに移り26年、コンビは11シーズン目に突入する。

### JN-3 Class Driver 上原淳
Jun UEHARAI 埼玉県

2025年参戦車両 スバルBRZ
2025年ランキング JN-2クラス2位

1994年に全日本デビューを果たし、99年から2006年にかけて２輪駆動部門で活躍。09年から全日本ラリー参戦を再開した。地域密着型ER（救急総合診療科）である川越救急クリニック院長で、TV解説などでもおなじみのドクタードライバー。25年は混戦のなかでポイントを重ね、ランキング２位に。

### JN-3 Class Co-Driver 漆戸あゆみ
Ayumi URUSHIDO 長野県

2025年の主なドライバー 上原淳
2025年ランキング JN-2クラス2位

2002年に全日本ラリーにデビューして以来、これまで数多くのドライバーとコンビを組む、経験豊富なコ・ドライバー。近年、全日本ではJN-3クラスに参戦する上原淳のコ・ドライバーを務めており、24年の全日本最終戦ではクラス優勝、25年は上原とともにランキング２位に入った。

### JN-3 Class Driver 曽根崇仁
Takahito SONE 山口県

2025年参戦車両 トヨタGR86
2025年ランキング JN-3クラス3位

1995年に全日本ラリー初参戦、2024年に参戦30年目を迎えたベテランドライバー。16年と17年にトヨタ86でJN-4クラスを連覇。20年には自身３回目となる全日本タイトルを獲得した。24年で全日本フル参戦引退を公言したものの、25年は６戦に参戦。１勝とポディウム４回を獲得して安定感を見せた。

### JN-3 Class Co-Driver 小川由起
Yuki OGAWA 三重県

2025年の主なドライバー 曽根崇仁
2025年ランキング JN-2クラス3位

ドライバー、コ・ドライバーを同時進行で、全日本から中部近畿ラリーシリーズ、TGRラリーチャレンジと活発に参戦するママさんラリースト。25年は全日本にドライバーとして参戦したほか、曽根崇仁のコ・ドライバーを務め、絶妙なドライバーコントロールで最大限のポイント獲得に貢献した。

### JN-4 Class Driver 筒井克彦
Katsuhiko TSUTSUI 福岡県

2025年参戦車両 スズキ･スイフトスポーツ
2025年ランキング JN-4クラス2位

オートポリスのゴールドカップレースからスーパー耐久、SUPER GTでレーシングドライバーとして活躍する一方で、1999年～2000年に全日本ラリー参戦。09年からレギュラー参戦するキャリアの長いドライバー。25年はJN-4クラスで安定してポイントを重ね、ランキング２位に入った。

### JN-4 Class Co-Driver 本橋貴司
Takashi MOTOHASHI 千葉県

2025年の主なドライバー 筒井克彦
2025年ランキング JN-4クラス2位

全日本ラリーには、2004年の２輪駆動部門にドライバーとして出場。15年からコ・ドライバーとして参戦するようになり、18年から西川真太郎のコ・ドライバーとしてレギュラー参戦。21年、22年にJN-4クラスを連覇を果たした。25年は、筒井克彦のコ・ドライバーを務め、安定感のある戦いを支えた。

### JN-4 Class Driver 鮫島大湖
Daigo SAMESHIMA 愛知県

2025年参戦車両 スズキ･スイフトスポーツ
2025年ランキング JN-4クラス3位

中部近畿シリーズでラリー参戦を続けた後、2019年の久万高原ラリーにJN-4クラスで全日本デビュー。以来、スズキ・スイフトスポーツでラリー参戦を続けている。25年の全日本では、グラベル２戦で連続２位獲得など高ポイントを重ね、全日本自己ベストのランキング３位に入る活躍を見せた。

### JN-4 Class Co-Driver 船木佐知子
Sachiko FUNAKII 愛知県

2025年の主なドライバー 鮫島大湖
2025年ランキング JN-4クラス3位

2010年から中部近畿ラリーシリーズを中心に、コ・ドライバーとしてラリーに参戦。16年から鮫島大湖とコンビを組み続け、19年にともに参戦した久万高原ラリーが全日本デビュー。鮫島とのコンビ10年目となる25年、鮫島の快進撃を支え、ランキング３位に食い込んだ。

### JN-5 Class Driver 小川剛
Tsuyoshi OGAWA 佐賀県

2025年参戦車両 トヨタ･ヤリス
2025年ランキング JN-5クラス2位

全日本デビューは2016年と遅咲きながらも、ホンダ・フィットでこの年のJN-1クラスでシリーズ３位を獲得。17年の第２戦で全日本初優勝を飾った。22年に、長年乗り継いできたフィットからヤリスにマシンをスイッチ。23年、25年とJN-5クラスでランキング３位に入賞した。

### JN-5 Class Co-Driver 山本祐也
Yuya YAMAMOTO 愛知県

2025年の主なドライバー 小川剛
2025年ランキング JN-5クラス2位

2016年にコ・ドライバーデビュー。東日本戦や中部近畿ラリーシリーズで活躍した。21年の新城ラリーで、全日本ラリー初参戦。23年、山田啓介と組んでJN-2クラスに参戦した久万高原ラリーで、全日本初優勝をマークした。24年から小川剛のコ・ドライバーを務めている。

### JN-5 Class Driver 松倉拓郎
Takuro MATSUKURA 北海道

2025年参戦車両 トヨタ･ヤリス
2025年ランキング JN-5クラス3位

北海道のジムカーナやラリーで活躍後、2012年から全日本ラリーのグラベルラウンドを主体にスポット参戦を開始。グラベルラリーでの速さに定評がある。23年はグラベルラリーをデミオ、ターマックラリーをヤリスと使い分け、自身初の全日本タイトルを獲得。24年も連覇を果たした。

### JN-5 Class Co-Driver 山田真記子
Makiko YAMADA 滋賀県

2024年の主なドライバー 松倉拓郎
2025年ランキング JN-5クラス3位

2008年の第５戦福島で全日本デビュー。11年には山口貴利とのコンビで全日本初優勝を果たし、シリーズ３勝を挙げた12年は全日本初タイトルを獲得した。松倉拓郎との初コンビとなった23年は１戦の欠場が響きタイトルを逃したが、24年は自身２回目となる全日本タイトル獲得を果たした。

### JN-X Class Driver 清水和夫
Kazuo SHIMIZU 東京都

2025年参戦車両 トヨタ･ヤリス
2025年ランキング JN-Xクラス2位

1980年から85年まで、チームSUBARUのワークスドライバーとしてラリーに参戦。83年のDCCSで総合優勝を飾った。レーシングドライバーに転身後、2021年から全日本ラリーに本格的に復帰し、JN-6クラスに参戦。24年の第４戦で絶対王者の天野智之を退け、41年ぶりの全日本優勝を飾った。

### JN-X Class Co-Driver 山本磨美
Mami YAMAMOTO 群馬県

2025年の主なドライバー 清水和夫
2025年ランキング JN-Xクラス2位

2015年第８戦のハイランドで、山口清司のコ・ドライバーとして全日本デビューし、初優勝。19年は山本悠太のコ・ドライバーとして参戦し、シーズン６勝で全日本初タイトルを獲得した。21年から清水和夫のコ・ドライバーを務め、24年第４戦丹後では清水の41年ぶりの全日本優勝に貢献した。

### JN-X Class Driver 中西昌人
Masato NAKANISHI 福岡県

2025年参戦車両 ホンダCR-Z
2025年ランキング JN-Xクラス3位

1996年から全日本ラリーに参戦する九州のベテラン。2014年にクラス１で全日本タイトルを獲得。19年はAT仕様のマツダRX-8で、シリーズ２位とわずか0.1点差のシリーズ３位に食い込んだ。22年、24年にJN-6クラス、JN-Xとなった25年もシリーズ３位に入るシリーズの常連トップコンテンダー。

### JN-X Class Co-Driver 山村浩三
Kouzou YAMAMURA 長野県

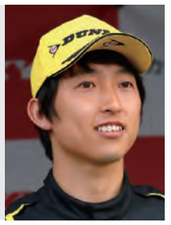
2025年の主なドライバー 中西昌人
2025年ランキング JN-Xクラス3位

かつてのTRDラリーチャレンジや、中部・近畿ラリー選手権などを舞台に活躍したベテラン・コ・ドライバー。2023年に中西昌人とコンビを組み、JN-6クラスで全日本ラリーに初出場。参戦した７戦すべてでポイントを獲得し、ランキングシリーズ２位に入った。以降、中西とのコンビは継続中だ。

### Rising Driver 最上佳樹
Yoshiki MOGAMI 愛知県

2025年参戦車両 トヨタGRヤリス
2025年ランキング MORIZO Challenge Cup 3位

2022年に全日本学生ダートトライアル選手権、JAFカップオールジャパンジムカーナで優勝した後、23年は全日本ジムカーナに参戦。24年にMORIZO Challenge Cup（MCC）に登録し、全日本でラリーデビューを飾った。25年最終戦で念願のMCC初優勝をマーク。26年は３シーズン目のMCCに挑む。



### Rising Driver 米林慶晃
Yoshiteru YONEBAYASHI 神奈川県

2025年参戦車両 トヨタGRヤリス
2025年主要リザルト 第6戦北海道MCC3位

2021年からヌタハララリースクールのヤングエキスパートクラスに参加、TGR WRCチャレンジプログラムの選考では３年連続でファイナルに選出された。25年、18歳で普通自動車運転免許を取得した直後の第２戦で、MORIZO Challenge Cupでラリーデビュー。今季はタイトルを目指して挑む。

### Rising Driver 渡部弘樹
Hiroki WATABE 群馬県

2025年参戦車両 トヨタ86
2025年主要リザルト 第4戦モントレー優勝

関東を中心にラリーに参戦し、2024年に全日本ラリーデビュー。トヨタ86でJN-3クラスに参戦した25年は、地元群馬県開催の第４戦モントレーで、トップ２台が同タイムフィニッシュながらSS1のタイムで上まわり劇的な全日本初優勝を決めた。26年も引き続き86で、クラス改編後のJN-4クラスに挑む。

### Rising Driver 吉原將大
Shota YOSHIHARA 東京都

2025年参戦車両 スバルWRX STI
2025年主要リザルト 第8戦高山4位

2021年に全日本ラリーJN-6クラスに彗星のごとく現れ、参戦６戦すべてで優勝し、衝撃の全日本初タイトルを獲得。24年は自身のチームを立ち上げてJN-5クラスに参戦、25年はJN-2クラスにステップアップした。26年はTEAM UPGARAGEフルカラーリングのトヨタGRヤリスで、JN-3クラスに挑む。

*Rising = 成長著しい注目選手

# 2025 Point Ranking

[2025年ポイントランキング] ※JAF公式ウェブサイトより

## JN-1 Class

福永修が最新型のシュコダ・ファビアRSラリー２、鎌田卓麻がシュコダ・ファビアR5を投入し、一層の激化が予想されたシーズン。勝田範彦、新井大輝が２勝ずつ、奴田原文雄もラリー２車両での初勝利をマークし、終盤を迎えても４人にタイトルのチャンスが残る大混戦となった。グラベル２戦で苦戦したヘイキ・コバライネンが第７戦でシーズン初勝利をマークすると、最終戦でも安定した速さを見せ、タイトル奪還を果たした。

### ドライバー

| 順位 | 氏名 | Rd.1 三河湾 (T)1.0 | Rd.2 唐津 (T)1.2 | Rd.3 飛鳥 (T)1.0 | Rd.4 モントレー (T)1.0 | Rd.5 カムイ (G)1.5 | Rd.6 北海道 (G)1.5 | Rd.7 久万高原 (T)1.2 | Rd.8 高山 (T)1.0 | 有効得点 (ベスト6戦) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | Heikki Kovalainen | 18 | 20 | 18 | 17 | 2 | 5.5 | 27 | 23 | 123 |
| 2 | 勝田 範彦 | 22 | 27 | 14 | 13 | 19 | | 15.4 | 16 | 113.4 |
| 3 | 新井 大輝 | 3 | | 21 | 23 | | 33 | 20 | 5 | 105 |
| 4 | 奴田原 文雄 | 13 | 12 | 10 | 8 | 33 | 22.5 | 9.6 | 12 | 102.5 |
| 5 | 鎌田 卓麻 | 10 | 15.4 | 8 | 10 | 22.5 | 8 | | | 73.9 |
| 6 | 福永 修 | 8 | 9.6 | 6 | 6 | 15 | 18 | 12 | 10 | 72.6 |
| 7 | 石黒 一暢 | 6 | 4.8 | 4 | 3 | 6 | 12 | 4.8 | 8 | 41.6 |
| 8 | 新井 敏弘 | | 7.2 | | 4 | 12 | | 7.2 | | 30.4 |
| 9 | 今井 聡 | | | | | 9 | 15 | | 6 | 30 |
| 10 | 金岡 義樹 | 4 | | 3 | | 4.5 | 9 | | | 20.5 |
| 11 | 渡部 哲成 | | | | | | | | 4 | 4 |
| 12 | マクリン大地 | | | | | | | 3.6 | | 3.6 |

### コ・ドライバー

| 順位 | 氏名 | Rd.1 三河湾 (T)1.0 | Rd.2 唐津 (T)1.2 | Rd.3 飛鳥 (T)1.0 | Rd.4 モントレー (T)1.0 | Rd.5 カムイ (G)1.5 | Rd.6 北海道 (G)1.5 | Rd.7 久万高原 (T)1.2 | Rd.8 高山 (T)1.0 | 有効得点 (ベスト6戦) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 北川 紗衣 | 18 | 20 | 18 | 17 | 2 | 5.5 | 27 | 23 | 123 |
| 2 | 保井 隆宏 | 22 | 27 | 14 | 13 | 19 | | 15.4 | 16 | 113.4 |
| 3 | 立久井 大輝 | 3 | | 21 | 23 | | 33 | 20 | 5 | 105 |
| 4 | 東 駿吾 | 13 | 12 | 10 | 8 | 33 | 22.5 | 9.6 | 12 | 102.5 |
| 5 | 松本 優一 | 10 | 15.4 | 8 | 10 | 22.5 | 8 | | | 73.9 |
| 6 | 齊田 美早子 | 8 | 9.6 | 6 | 6 | 15 | 18 | 12 | 10 | 72.6 |
| 7 | 穴井 謙志郎 | 6 | 4.8 | 4 | 3 | 6 | 12 | 4.8 | 8 | 41.6 |
| 8 | 小坂 典嵩 | | 7.2 | | 4 | 12 | | 7.2 | | 30.4 |
| 9 | 高橋 芙悠 | | | | | 9 | 15 | | 6 | 30 |
| 10 | 山口 大輝 | | | | | 4.5 | 9 | 3.6 | | 17.1 |
| 11 | マクリン大地 | 4 | | 3 | | | | | | 7 |
| 12 | 竹下 紀子 | | | | | | | | 4 | 4 |

## JN-2 Class

MORIZO Challenge Cup（MCC）卒業生の山田啓介が本クラスにエントリーしたほか、JN-4から内藤学武、JN-5から大倉聡と強豪の参戦が相次ぎ激戦区に。山田は、開幕戦で大会連覇を果たすと第3戦、第4戦も勝利を重ねた。一方、MCCを戦う大竹は得意のグラベルで連勝、MCC卒業生の貝原聖也も第7戦で全日本初勝利を飾り、この3人が最終戦でタイトル決戦。山田が会心のラリー運びで競り勝ち、悲願の初タイトルを手にした。

### ドライバー

| 順位 | 氏名 | Rd.1 三河湾 (T)1.0 | Rd.2 唐津 (T)1.2 | Rd.3 飛鳥 (T)1.0 | Rd.4 モントレー (T)1.0 | Rd.5 カムイ (G)1.5 | Rd.6 北海道 (G)1.5 | Rd.7 久万高原 (T)1.2 | Rd.8 高山 (T)1.0 | 有効得点 (ベスト6戦) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 山田 啓介 | 23 | 3 | 23 | 23 | | | 21 | 21 | 114 |
| 2 | 大竹 直生 | 10 | 14.4 | 6 | | 33 | 30 | 4.8 | 3 | 98.2 |
| 3 | 貝原 聖也 | | 19 | 15 | 17 | 9 | 4.5 | 26 | | 90.5 |
| 4 | 大倉 聡 | | 26 | 3 | 6 | 18 | | 14.4 | 15 | 82.4 |
| 5 | 内藤 学武 | | 12 | 12 | 4 | | 22.5 | 12 | 15 | 77.5 |
| 6 | 石川 昌平 | | | 8 | 8 | 22.5 | 18 | | 8 | 64.5 |
| 7 | 長尾 網也 | | 3.6 | | | 17 | 18 | | | 38.6 |
| 8 | 小泉 敏志 | 17 | | 2 | 13 | | 2 | | | 34 |
| 9 | Jones Zeal | 4 | 9.6 | | | | 9 | 9.6 | | 32.2 |
| 10 | 三枝 聖弥 | 13 | | 1 | 10 | | | 1 | | 25 |
| 11 | 吉原 將大 | | | 10 | 3 | | | | 12 | 25 |
| 12 | 稲葉 摩人 | 8 | 7.2 | 4 | | | | | | 19.2 |
| 13 | 関根 正人 | | | | | 12 | 6 | | | 18 |
| 14 | 米林 慶晃 | | | | | | 13 | | | 13 |
| 15 | 最上 佳樹 | | 4.8 | | | | | | 6 | 10.8 |
| 16 | 兼松 由奈 | | | | | | | 3.6 | 4 | 7.6 |
| 17 | 岩堀 巧 | | | | | | | 7.2 | | 7.2 |
| 18 | HYOMA | 6 | | | | | | | | 6 |
| 18 | 奥井 優介 | | | | | 6 | | | | 6 |
| 20 | 松原 周勢 | | | | | 4.5 | | | | 4.5 |
| 21 | 塙 将司 | 3 | | | | | | | | 3 |
| 22 | 松岡 孝典 | | | | | 1 | | | | 1 |

### コ・ドライバー

| 順位 | 氏名 | Rd.1 三河湾 (T)1.0 | Rd.2 唐津 (T)1.2 | Rd.3 飛鳥 (T)1.0 | Rd.4 モントレー (T)1.0 | Rd.5 カムイ (G)1.5 | Rd.6 北海道 (G)1.5 | Rd.7 久万高原 (T)1.2 | Rd.8 高山 (T)1.0 | 有効得点 (ベスト6戦) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 藤井 俊樹 | 23 | 3 | 23 | 23 | | | 21 | 21 | 114 |
| 2 | 橋本 美咲 | 10 | 14.4 | 6 | | 33 | 30 | 4.8 | 3 | 98.2 |
| 3 | 豊田 耕司 | | 26 | 3 | 6 | 18 | | 14.4 | 15 | 82.4 |
| 4 | 西崎 佳代子 | | 19 | 15 | 17 | | 4.5 | 26 | | 81.5 |
| 5 | 大高 徹也 | | 12 | 12 | 4 | | 22.5 | 12 | 15 | 77.5 |
| 6 | 大倉 瞳 | | | 8 | 8 | 22.5 | 18 | | 8 | 64.5 |
| 7 | 安藤 裕一 | | 3.6 | | | 17 | 18 | | | 38.6 |
| 8 | 村山 朋香 | 17 | | 2 | 13 | | 2 | | | 34 |
| 9 | Thomson Bayden | 4 | 9.6 | | | | 9 | 9.6 | | 32.2 |
| 10 | 木村 裕介 | 13 | | 1 | 10 | | | 1 | | 25 |
| 11 | 竹下 紀子 | 8 | 7.2 | 4 | | | | | | 19.2 |
| 12 | 松川 萌子 | | | | | 12 | 6 | | | 18 |
| 13 | 木村 悟士 | | | | | | 13 | | | 13 |
| 14 | 石田 裕一 | | | | | | | | 12 | 12 |
| 15 | 小藤 桂一 | | 4.8 | | | | | | 6 | 10.8 |
| 16 | 安東 貞敏 | | | 10 | | | | | | 10 |
| 17 | 藤沢 繁利 | | | | | 9 | | | | 9 |
| 18 | 山下 秀 | | | | | | | 3.6 | 4 | 7.6 |
| 19 | 相原 貴浩 | | | | | | | 7.2 | | 7.2 |
| 20 | 菅野 総一郎 | 6 | | | | | | | | 6 |
| 20 | 藤田 めぐみ | | | | | 6 | | | | 6 |
| 22 | 槻島 もも | | | | | 4.5 | | | | 4.5 |
| 23 | 西村 正義 | 3 | | | | | | | | 3 |
| 23 | 伊勢谷 巧 | | | | 3 | | | | | 3 |
| 25 | 坂口 慎一 | | | | | 1 | | | | 1 |

## JN-3 Class

王者の山本悠太は、ボディを変更したものの引き続きトヨタGR86でタイトル３連覇に向けて開幕３連勝と好発進。第４戦ではマシントラブルに見舞われたが、続くグラベル連戦を制し第６戦終了時点で３連覇を決めた。２位争いは毎戦顔ぶれが変わる混戦となるなか、着実にポイントを重ねたベテランの上原淳がランキング２位に。25年はスポット参戦となった曽根が安定感のある走りでコンスタントに得点を重ね、３位に入った。

### ドライバー

| 順位 | 氏名 | Rd.1 三河湾 (T)1.0 | Rd.2 唐津 (T)1.2 | Rd.3 飛鳥 (T)1.0 | Rd.4 モントレー (T)1.0 | Rd.5 カムイ (G)1.5 | Rd.6 北海道 (G)1.5 | Rd.7 久万高原 (T)1.2 | Rd.8 高山 (T)1.0 | 有効得点 (ベスト6戦) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 山本 悠太 | 23 | 27 | 22 | | 33 | 33 | 12 | 23 | 161 |
| 2 | 上原 淳 | 6 | 19 | | 14 | 24.5 | | 21 | 10 | 94.5 |
| 3 | 曽根 崇仁 | | 16.4 | 18 | | 19 | | 25 | 14 | 92.4 |
| 4 | 加納 武彦 | | | 8 | 8 | 15 | 24.5 | | 6 | 61.5 |
| 5 | 山口 清司 | 10 | 12 | 13 | 10 | | | 16.4 | | 61.4 |
| 6 | 渡部 弘樹 | | 9.6 | 10 | 21 | | | 9.6 | 8 | 58.2 |
| 7 | 下口 紘輝 | 16 | | | 6 | | | | | 22 |
| 8 | 鈴木 尚 | | | | 18 | | | | | 18 |
| 9 | 窪 啓嗣 | | | | | | | | 16 | 16 |
| 10 | 内田 園美 | 10 | | 4 | | | | | | 14 |
| 11 | 長﨑 雅志 | 12 | | | | | | | | 12 |
| 11 | 牧瀬 貫慈 | | | | | 12 | | | | 12 |
| 13 | 中野 敬太 | | | 6 | | | | | | 6 |
| 14 | 荒 聖治 | | | | | | | | 4 | 4 |

### コ・ドライバー

| 順位 | 氏名 | Rd.1 三河湾 (T)1.0 | Rd.2 唐津 (T)1.2 | Rd.3 飛鳥 (T)1.0 | Rd.4 モントレー (T)1.0 | Rd.5 カムイ (G)1.5 | Rd.6 北海道 (G)1.5 | Rd.7 久万高原 (T)1.2 | Rd.8 高山 (T)1.0 | 有効得点 (ベスト6戦) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 立久井 和子 | 23 | 27 | 22 | | 33 | 33 | 12 | 23 | 161 |
| 2 | 漆戸 あゆみ | 6 | 19 | | 14 | 24.5 | | 21 | 10 | 94.5 |
| 3 | 小川 由起 | | 16.4 | 18 | | 19 | | 25 | 14 | 92.4 |
| 4 | 横山 慎太郎 | | 9.6 | 10 | 21 | | | 9.6 | 8 | 58.2 |
| 5 | 島津 雅彦 | | | 8 | 18 | | 24.5 | | | 50.5 |
| 6 | 丸山 晃助 | | 12 | 13 | | | | 16.4 | | 41.4 |
| 7 | 小林 一貴 | 16 | | | 6 | | | | | 22 |
| 8 | 澤田 耕一 | 10 | | | 10 | | | | | 20 |
| 9 | 藤口 裕介 | | | | | | | | 16 | 16 |
| 10 | 萱原 直子 | | | | | 15 | | | | 15 |
| 11 | 萌抜 浩史 | | | | 8 | | | | 6 | 14 |
| 12 | 大矢 啓太 | 12 | | | | | | | | 12 |
| 12 | 御領 親幸 | | | | | 12 | | | | 12 |
| 14 | 石垣 晴恵 | 10 | | | | | | | | 10 |
| 15 | 和氣 暁 | | | 6 | | | | | | 6 |
| 16 | 砂川 里美 | | | 4 | | | | | | 4 |
| 16 | 明治 慎太郎 | | | | | | | | 4 | 4 |

## JN-4 Class

24年はクラス最多ポイントを獲得しながら有効戦数の規定によりタイトルを逃した高橋悟志が、開幕戦からスタートダッシュ。しかし、第２戦で黒原康仁が地元九州で、新鋭・藤原友貴が第３戦で全日本初優勝を飾る。藤原は第４戦も連勝したが、全日本初グラベルの第５戦で痛恨のレグリタイア。マシントラブルに悩まされながらもこのラリーを制した高橋が第６戦で３位に入ったことで、自身３度目の全日本タイトルを決めた。

### ドライバー

| 順位 | 氏名 | Rd.1 三河湾 (T)1.0 | Rd.2 唐津 (T)1.2 | Rd.3 飛鳥 (T)1.0 | Rd.4 モントレー (T)1.0 | Rd.5 カムイ (G)1.5 | Rd.6 北海道 (G)1.5 | Rd.7 久万高原 (T)1.2 | Rd.8 高山 (T)1.0 | 有効得点 (ベスト6戦) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 高橋 悟志 | 23 | 20 | 17 | 18 | 31 | 19 | 不成立 | 23 | 116 |
| 2 | 筒井 克彦 | 17 | 14.4 | 11 | 13 | 18 | 15 | | | 77.4 |
| 3 | 鮫島 大湖 | | 12 | | 10 | 24.5 | 24.5 | | | 71 |
| 4 | 藤原 友貴 | 10 | | 23 | 22 | 15 | | | | 70 |
| 5 | 鶴岡 雄次 | | 7.2 | 12 | 8 | 9 | 12 | | 13 | 54 |
| 6 | 須藤 浩志 | 13 | | | 6 | | | | 17 | 36 |
| 7 | 小舘 優貴 | | | | | | 33 | | | 33 |
| 8 | 黒原 康仁 | | 27 | | | | | | | 27 |
| 9 | 辻 祥汰 | | | | | 15 | | | | 15 |
| 10 | 前田 宣重 | | 10.6 | | | | | | | 10.6 |

### コ・ドライバー

| 順位 | 氏名 | Rd.1 三河湾 (T)1.0 | Rd.2 唐津 (T)1.2 | Rd.3 飛鳥 (T)1.0 | Rd.4 モントレー (T)1.0 | Rd.5 カムイ (G)1.5 | Rd.6 北海道 (G)1.5 | Rd.7 久万高原 (T)1.2 | Rd.8 高山 (T)1.0 | 有効得点 (ベスト6戦) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 箕作 裕子 | 23 | 20 | 17 | 18 | 31 | 19 | 不成立 | 23 | 116 |
| 2 | 本橋 貴司 | 17 | 14.4 | 11 | 13 | 18 | | | | 73.4 |
| 3 | 船木 佐知子 | | 12 | | 10 | 24.5 | 24.5 | | | 71 |
| 4 | 宮本 大輝 | 10 | | 23 | 22 | 15 | | | | 70 |
| 5 | 山岸 典将 | | 7.2 | 12 | 8 | 9 | 12 | | 13 | 54 |
| 6 | 新井 正和 | 13 | | | 6 | | | | 17 | 36 |
| 7 | 伴 英憲 | | | | | | 33 | | | 33 |
| 8 | 松葉 謙介 | | 27 | | | | | | | 27 |
| 9 | 堀切 利純 | | | | | 15 | | | | 15 |
| 9 | 猪熊 悠平 | | | | | | 15 | | | 15 |
| 11 | 勝瀬 知冬 | | 10.6 | | | | | | | 10.6 |

## JN-5 Class

２連覇中の松倉拓郎が序盤３戦でポイントを重ねられないなか、開幕戦では小川剛が４年ぶりの全日本勝利をマーク。成長著しい河本拓哉が第２戦、第３戦を連勝。後がない松倉は、ターマックの第４戦を制すると得意のグラベル２連戦を勝利で並べ、タイトルに望みをつないだ。しかし、第７戦久万高原で早々にリタイアを喫してしまう。ここで初日からリードを築いた河本がシーズン３勝目をマークし、待望の全日本初タイトルを手にした。

### ドライバー

| 順位 | 氏名 | Rd.1 三河湾 (T)1.0 | Rd.2 唐津 (T)1.2 | Rd.3 飛鳥 (T)1.0 | Rd.4 モントレー (T)1.0 | Rd.5 カムイ (G)1.5 | Rd.6 北海道 (G)1.5 | Rd.7 久万高原 (T)1.2 | Rd.8 高山 (T)1.0 | 有効得点 (ベスト6戦) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 河本 拓哉 | 18 | 25 | 23 | 17 | 24.5 | | 27 | 6 | 134.5 |
| 2 | 小川 剛 | 22 | 16.4 | 1 | 1 | 19 | 24.5 | | 22 | 104.9 |
| 3 | 松倉 拓郎 | | | | 23 | 33 | 33 | | | 89 |
| 4 | 阪口 知洋 | 12 | 12 | 12 | 12 | | | 20 | 18 | 86 |
| 5 | 島根 剛 | 10 | 7.2 | 10 | 10 | 4.5 | 9 | 15.4 | 13 | 67.4 |
| 6 | 中溝 悠太 | | 21 | 17 | | 9 | 16 | | | 63 |
| 7 | 三苫 和義 | | 9.6 | | | 15 | 18 | | | 42.6 |
| 8 | 本名 修也 | | | 6 | 3 | 6 | 6 | 12 | | 33 |
| 9 | 山中 健志郎 | 4 | 3.6 | 8 | | | | | | 15.6 |
| 10 | HARU | | | 4 | | | | | 8 | 12 |
| 11 | 松原 久 | | | | | 12 | | | | 12 |
| 11 | 小出 辰彦 | | | | | | 12 | | | 12 |
| 13 | 伊藤 祐悟 | | | | | | | | 10 | 10 |
| 14 | 小川 由起 | 3 | | | 6 | | | | | 9 |
| 15 | Rina Ito | 8 | | | | | | | | 8 |
| 15 | 南久松 奈々 | | | | 8 | | | | | 8 |
| 17 | 福島 徳也 | 6 | | | | | | | | 6 |
| 18 | 田崎 克典 | | 4.8 | | | | | | | 4.8 |
| 19 | 村上 克彦 | | | | 4 | | | | | 4 |
| 19 | 亀高 秀也 | | | | | | | | 4 | 4 |
| 21 | 吉田 知史 | | | 3 | | | | | | 3 |
| 21 | 湯澤 美幸 | | | | | | | | 3 | 3 |
| 23 | 佐藤 光理 | 1 | | | | | | | | 1 |

### コ・ドライバー

| 順位 | 氏名 | Rd.1 三河湾 (T)1.0 | Rd.2 唐津 (T)1.2 | Rd.3 飛鳥 (T)1.0 | Rd.4 モントレー (T)1.0 | Rd.5 カムイ (G)1.5 | Rd.6 北海道 (G)1.5 | Rd.7 久万高原 (T)1.2 | Rd.8 高山 (T)1.0 | 有効得点 (ベスト6戦) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 有川 大輔 | 18 | 25 | 23 | 17 | 24.5 | | 27 | 6 | 134.5 |
| 2 | 山本 祐也 | 22 | 16.4 | 1 | 1 | 19 | 24.5 | | 22 | 104.9 |
| 3 | 山田 真記子 | | | | 23 | 33 | 33 | | | 89 |
| 4 | 野口 智恵美 | 12 | 12 | 12 | 12 | | | 20 | 18 | 86 |
| 5 | 粕川 凌 | 10 | 7.2 | 10 | 10 | 4.5 | 9 | 15.4 | 13 | 67.4 |
| 6 | 遠藤 彰 | | 9.6 | | | 15 | 18 | | | 42.6 |
| 7 | 佐々木 裕一 | | 21 | 17 | | | | | | 38 |
| 8 | 湊 比呂美 | | | 6 | 3 | 6 | 6 | 12 | | 33 |
| 9 | 竹下 紀子 | | | | | 9 | 16 | | | 25 |
| 10 | 鷹巣 恵鈴 | 4 | 3.6 | 8 | | | | | | 15.6 |
| 11 | 浦野 純乃介 | | | 4 | | | | | 8 | 12 |
| 12 | 和田 善明 | | | | | 12 | | | | 12 |
| 12 | 松本 芳幸 | | | | | | 12 | | | 12 |
| 14 | 船木 淳史 | | | | | | | | 10 | 10 |
| 15 | 松浦 俊朗 | 8 | | | | | | | | 8 |
| 15 | 坂井 智幸 | | | | 8 | | | | | 8 |
| 17 | 鈴木 康敬 | 6 | | | | | | | | 6 |
| 17 | 藤井 亮輔 | | | | 6 | | | | | 6 |
| 19 | 井ノ上 理佐 | | 4.8 | | | | | | | 4.8 |
| 20 | 多比羅 二三男 | | | | 4 | | | | | 4 |
| 20 | 厚地 保幸 | | | | | | | | 4 | 4 |
| 22 | 北田 稔 | 3 | | | | | | | | 3 |
| 22 | 石垣 晴恵 | | | 3 | | | | | | 3 |
| 22 | 久保田 真生 | | | | | | | | 3 | 3 |
| 25 | 坂口 進 | 1 | | | | | | | | 1 |

## JN-X Class

24年までのJN-6から、駆動方式を問わず気筒容積が2500cc以下のAE車両が対象の環境対応クラスとなった25年。絶対王者の天野智之は、ラリーキャリアのなかで最大車格というトヨタRAV4 PHEVを投入すると、車体の大きさをものともせずに開幕から連勝街道を邁進。グラベル２戦では、前年までのトヨタ・アクアを使い、その２戦目である第６戦で天野が17回目、コ・ドライバーの井上裕紀子が18回目の全日本タイトルを決めた。

### ドライバー

| 順位 | 氏名 | Rd.1 三河湾 (T)1.0 | Rd.2 唐津 (T)1.2 | Rd.3 飛鳥 (T)1.0 | Rd.4 モントレー (T)1.0 | Rd.5 カムイ (G)1.5 | Rd.6 北海道 (G)1.5 | Rd.7 久万高原 (T)1.2 | Rd.8 高山 (T)1.0 | 有効得点 (ベスト6戦) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 天野 智之 | 23 | 27 | 22 | 23 | 33 | 33 | 27 | 23 | 166 |
| 2 | 清水 和夫 | 17 | 20 | 18 | 17 | 19 | 19 | 20 | 16 | 113 |
| 3 | 中西 昌人 | 13 | 12 | 10 | 10 | 15 | 24.5 | 15.4 | | 89.9 |
| 4 | 海老原 孝敬 | | | 13 | 13 | 24.5 | 12 | | 14 | 76.5 |
| 5 | 木村 謙治 | | | 8 | 8 | 12 | 15 | | | 43 |
| 6 | 山北 研二 | | 15.4 | | | | | | | 15.4 |
| 7 | 鷲尾 俊一 | | | | | | | 12 | | 12 |
| 8 | 常慶 明秀 | | 9.6 | | | | | | | 9.6 |

### コ・ドライバー

| 順位 | 氏名 | Rd.1 三河湾 (T)1.0 | Rd.2 唐津 (T)1.2 | Rd.3 飛鳥 (T)1.0 | Rd.4 モントレー (T)1.0 | Rd.5 カムイ (G)1.5 | Rd.6 北海道 (G)1.5 | Rd.7 久万高原 (T)1.2 | Rd.8 高山 (T)1.0 | 有効得点 (ベスト6戦) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 井上 裕紀子 | 23 | 27 | 22 | 23 | 33 | 33 | 27 | 23 | 166 |
| 2 | 山本 唐美 | 17 | 20 | 18 | 17 | 19 | 19 | 20 | 16 | 113 |
| 3 | 山村 浩三 | 13 | 12 | 10 | 10 | 15 | 24.5 | 15.4 | | 89.9 |
| 4 | 蕗山 恵 | | | 13 | 13 | 24.5 | 12 | | 14 | 76.5 |
| 5 | 春日 美知子 | | 15.4 | | 8 | | | 12 | | 35.4 |
| 6 | 多比羅 二三男 | | | 8 | | 12 | | | | 20 |
| 7 | 中田 昌美 | | | | | | 15 | | | 15 |
| 8 | 德永 琢磨 | | 9.6 | | | | | | | 9.6 |

### ●得点について

クラスごとに１～８位までの選手に下記の表の得点が与えられます。得点係数がかかるラリーでは、この表の得点に係数をかけて、小数点第１位までを換算した値が与えられます。

| 順位 | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 | 6位 | 7位 | 8位 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 得点 | 20点 | 15点 | 12点 | 10点 | 8点 | 6点 | 4点 | 3点 |

### ●有効得点について

JAFが定める日本ラリー選手権規定では、選手権として成立した競技会数が８戦以上の場合は高得点順に６戦分、７戦以下の場合は５戦分が有効得点となります。2025年はJN-4クラスを除く５クラスは８戦すべてが成立となったため有効戦数６戦分の得点で、JN-4クラスは７戦成立となり有効戦数５戦分の得点で、それぞれ順位が認定されました。

### ●得点係数について

成立したSSの総距離および路面に従い、獲得した得点に係数がかけられます。SS総距離50～100km未満のターマックイベントは1.0、グラベルイベントは1.2、SS総距離100km以上のターマックイベントは1.2、グラベルイベントは1.5となっており、いずれもSS総距離が長いイベントほど高得点を獲得するチャンスとなります。選手たちはこの得点係数を含めて戦略を練るため、シリーズを戦ううえでも重要なポイントのひとつです。

### ●レグ別得点について

全日本ラリー選手権では、SS、リエゾン、サービスも含めた１日ごとのアイテナリーを「レグ」と呼びます。レグ２以降は、各クラスでレグの順位ごとにレグ別得点が与えられ、１位＝３点、２位＝２点、３位＝１点となっています。このレグ別得点はレグ１をトラブル等で離脱した場合でも、レグ２単独で上位に入ることができれば獲得が可能です。また、レグ別得点には得点係数はかかりません。

※項目は上からラウンド数／開催場所／路面（T＝ターマック、G＝グラベル）、係数を表します。

# JRCAとは？

**総合理念** モータースポーツとしてのラリーの振興

**重点活動項目**

1. ラリーの認知向上を目指す
2. スポーツとしての質とレベルの高いラリーを目指す
3. 地域、社会に貢献できるラリーを目指す

JRCA（ジェイアールシーエー）は、日本でのラリーの振興を目的として2000年7月に設立されました。以来、世界標準であるSSラリーへの移行、救急体制や安全に関する啓蒙、ギャラリーステージ設置の働きかけやプロモーション活動など、多くの課題に取り組んでいます。

また、18年度からJAF加盟団体として登録、主催者や選手、メディア、スポンサーと連携し、ラリーの振興と発展への努力を常に続けています。

さらに、23年からは、JAFからの依頼を受け全日本ラリー選手権の各ラウンドにて技術アドバイザーの支援なども行っています。

## JRCAの主な活動内容

### JRCAホームページの運営

JRCAホームページでは、全日本ラリー選手権に関する様々な情報を随時更新、発信しています。ラリーレポートやリザルト、写真や動画の配信のほか、ラリー初心者に向けた基本的なルールの解説などを掲載。入会の申し込みもこちらから行えます。

**http://www.jrca.gr.jp**

### ダイジェスト動画の配信

主催者やチーム、選手にご協力いただき、各ラウンドのダイジェスト動画を制作、無料公開しています。インカー映像、空撮など、様々な角度から全日本ラリー選手権の映像をお楽しみいただけます。

**http://www.jrca.gr.jp/video**

### 技術アドバイザーやメディアゾーン設置の支援

JAFからの依頼を受け、車両規定の解釈を一定の水準に揃えることを目的とした技術アドバイザーの支援や、選手へのインタビューを行うメディアゾーン設置業務の支援も行っています。

### JRCガイドブックの発行

年に1回、本誌JRCガイドブックを発行しています。国内ラリーを楽しむうえでの様々な情報や各ラウンドの解説など、ラリーを知りたい方々に分かりやすいガイドブックとなっています。

### 救急医療キットの貸し出し

ラリー競技開催中には、選手のみならず、ギャラリーやオフィシャルにも思わぬ事故や怪我が生じてしまうことがあります。JRCAではこうしたアクシデントに備え、主催者への救急医療キットの貸し出しを行っています。

### クラス区分ステッカーの製作

ギャラリーやオフィシャル、メディアの方々がどのクラスのマシンなのかを判別しやすいように、参加車両に貼り付けるクラスステッカーを製作して、JRC会員には無料で配布を行っています。

### SS速報メールの配信

大会の現場に来ることができない会員向けに、JN-1上位選手のSS速報タイムをメールで配信しています。総合の暫定順位やタイム差なども、ほぼリアルタイムで受信することができます。

### JAFへの提案や主催者との意見交換

ラリーの競技規則や車両規則、ルールに関して主催者およびJAFと意見交換や協議をし、選手権をより魅力的なものにするための活動を行っています。

### JRCAアワードの選出

日本のラリー振興と発展に貢献した人物や団体を「JRCAアワード」として選出しています。2025年は、山田啓介選手、藤井俊樹選手、河本拓哉選手、有川大輔選手、初開催となったYUHO Rally飛鳥 supported by トヨタユナイテッド奈良が受賞しました。

### 日本のラリーを元気にする JRCA会員を募集中

日本のラリーを盛り上げていくため、また上記の活動や支援を続けるためには、できるだけ多くの方々のご協力が欠かせません。JRCAの趣旨にご賛同いただける方は、ぜひ入会をお願いいたします。

**会員サービス**
- SS速報メール配信
- JRCAガイドブックの送付
- 結果速報とリザルトの配信

**お問い合わせ**

JRCAお問い合わせフォーム http://www.jrca.gr.jp/contact
メールアドレス info@jrca.gr.jp
詳しくはJRCAのホームページまで http://www.jrca.gr.jp

**年会費**
- 団体・法人会員：10,000円
- 個人会員：10,000円
- ファンクラブ：5,000円

**入会方法**

JRCAウェブサイトの「JRCA入会のご案内」からお申込みください。
http://www.jrca.gr.jp/join